

〔付〕 2. 学校法人 慈恵大学中期目標・中期計画・平成29年度事業計画

中期目標・中期計画・平成29年度事業計画 目次

目標関連マップ	121
本学の理念・目的・使命	122
本学が目指す将来像（ビジョン）	122
平成29年度 重点施策	123
I 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標	133
1. 教育に関する目標	133
(1) 教育に関する目標（医学科・看護学科）	133
(2) 教育の実施体制等に関する目標	136
(3) 自己点検・評価の充実に関する目標	136
(4) 看護専門学校に関する目標	137
2. 研究に関する目標	138
(1) 研究水準および研究成果に関する目標	138
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標	139
(3) 総合医科学研究センターに関する目標	140
(4) その他	140
3. 診療に関する目標	140
●本院に関する目標	140
●葛飾医療センターに関する目標	145
●第三病院に関する目標	147
●柏病院に関する目標	150
II 法人運営の改善および効率化に関する目標	153
1. 運営体制の改善に関する目標	153
2. 人材確保・育成・活用に関する目標	153
3. 事務の効率化・合理化に関する目標	154
III 財務の改善に関する目標	154
1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標	154
2. 経費の抑制に関する目標	155
3. 資産の運用管理の改善に関する目標	155
IV その他事業運営に関する重要目標	156
1. 本院新外来棟建築に関する目標	156
2. 大学マスタープランの策定に関する目標	156
3. 創立130年記念事業に関する目標	156
4. 大規模災害時の対応に関する目標	157
5. 葛飾医療センター開設後の評価に関する目標	157

建学の精神 病気を診ずして病人を診よ

本学の

理念 医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。

目的 “病気を診ずして病人を診よ”という建学の精神に基づく質の高い医師と看護専門職者を育成し、臨床を支える医学・看護学研究を推進して、国民に適切な医療を提供する。

使命 社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

詳細は122ページ

本学が目指す将来像

建学の精神を継承し、社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。



平成25年～30年度 中期目標・中期計画

教育

質の高い医学・看護学教育

研究

本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進

診療

質の高い医療の提供

法人運営

教育・研究・診療活動を支える安定した財政基盤の構築
大学の地域社会への貢献
創立130年記念事業

平成29年度 事業計画

「教育」
重点施策
123ページ

「教育」は、
133～137ページへ



「研究」
重点施策
123ページ

「研究」は、
138～140ページへ



「医療」
重点施策
124～127ページ

「診療」
本院は140～145ページ
葛飾は145～147ページ
第三は147～149ページ
柏は150～152ページ



「法人」
重点施策
128ページ

「法人運営」は、
153～157ページへ



各病院・各部門 B S C

個人の目標管理・成果評価シート

[本学の理念・目的・使命]

- 理念：医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。
- 目的：“病気を診ずして病人を診よ”という建学の精神に基づく質の高い医師と看護専門職者を育成し、臨床を支える医学・看護学研究を推進して、国民に適切な医療を提供する。
- 使命：社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

[本学が目指す将来像（ビジョン）]

- 建学の精神を継承し、社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。

質の高い医学・看護学教育

- (1) 医学・看護学を深く理解し、豊かな人間性と倫理観を具えた全人的な医療を実践できる医師・看護師・保健師を育成するため、卒前・卒後の連携を視野に入れた特色ある教育システムを構築する。
- (2) 附属4病院の特徴を活かした多様な医師・看護師・保健師の育成プログラムを策定する。
- (3) 看護学科と看護専門学校は、協力して看護生涯学修の出発点となる基礎能力の育成に組織的に取り組む。
- (4) 大学院（博士課程と修士課程）教育の充実と改善を推進する。
- (5) 高い倫理観に基づいて研究を推進する。

本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進

- (1) 本学に継承されている特色ある研究を発展させる。
- (2) 臨床研究と疫学研究を推進するシステムを構築する。
- (3) 臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- (4) 先進医療を開拓するための医学研究を推進する。

質の高い医療の提供

- (1) 社会のニーズに応えることができる質の高い医療を実践できる附属病院を目指す。
- (2) 安心で安全な医療を提供できる医療システムを構築する。
- (3) 高度で先進的な医療を開発し実践する。
- (4) 疾病の予防・健康の増進を視野に入れた取り組みを推進する。
- (5) 医師、看護師および医療職者の技術を向上させるための取り組みを行う。
- (6) 各附属病院の特色を活かして、それぞれの活性化と機能分化を図る。

教育・研究活動を支える安定した財政基盤の構築

大学の地域社会への貢献

創立130年記念事業

- (1) 130年記念事業を継続して行う。

■教育に関する重点施策

- 1) 医学科・看護学科および臨床研修において、社会の信頼に応えられるよう、高い責任感、使命感、倫理観を備え、教養豊かな人材を育成する。
- 2) 医学科ディプロマポリシーに沿ったマイルストーンを作成する。
- 3) 医学科診療参加型臨床実習後の総合的臨床能力試験としてPost-CC OSCE（卒業時における客観的臨床能力試験）を実施する。
- 4) 医学科における実践的医療英語能力を向上するためのカリキュラムやプログラムを検討する。
- 5) 大学院医学研究科博士課程における学位審査基準の明確化を図る。
- 6) 新専門医制度に対応する専門研修プログラムを整備する。
- 7) 看護学科の課題解決能力・地域医療連携能力強化型新カリキュラムの科目内容に反映させる。
- 8) 看護学科の交換留学を継続し、国際的に活躍できる人材を育成できるよう新カリキュラムの内容に反映させる。
- 9) 看護学専攻修士課程において高度実践看護師教育課程・在宅看護専攻の申請を行う。
- 10) 看護学系専攻博士課程設置に向けた準備を行う。
- 11) 3看護専門学校の教育内容・方法についてカリキュラム改正を見越して検討する。
- 12) 看護教員と臨地実習指導者の定期的な事例検討を継続して行う。

■研究に関する重点施策

- 1) 私立大学研究ブランディング事業へ申請する。
- 2) 学内・学外共同研究を強化して研究の活性化を推進する。
- 3) 附属4病院の研究機能を促進するために、本院を含めた疾患レジストリ構築を準備する。
- 4) 総合医科学研究センターの各部署が最先端研究を推進し、競争的資金の獲得を目指す。
- 5) URAの研究支援活動とともに、学内研究費を活用し競争的資金を獲得する。
- 6) 大学が行う公開講座をホームページで発信する。
- 7) 研究成果の社会還元に努めアウトリーチ活動を継続する。
- 8) 平成30年度の専門医制度施行に向けて、総合診療医のための研究体制を構築する。

■医療に関する重点施策 本院

- 1) **医療安全・感染対策の推進**
 - ・医療安全・感染対策を検証し、有効で効率的な取組みを構築し、実践する。
- 2) **救急体制の充実**
 - ・断らない救急医療体制を確立する。
 - ・急性大動脈スーパーネットワークを積極的に活用する。
- 3) **医療連携の推進**
 - ・患者支援医療連携センターの体制を整備する。
 - ・主治医と産業医の間をつなぐ両立支援チームを立ち上げる。
 - ・港区在宅緩和ケアセンターを開設する。
 - ・返書管理、web予約システム構築などにより紹介患者を積極的に受入れる。
 - ・アウトリーチ活動に着手する。
- 4) **患者サービスの向上**
 - ・EBM (Etiquette-Based Medicine) の活動を向上させるとともに患者中心意識を浸透させ、「患者とのパートナーシップを高める」取り組みを行う。
 - ・患者ファーストの意識を徹底し、診療のあらゆる現場に浸透させる。
- 5) **ゆるやかなセンター化構想の推進**
 - ・新外来棟における消化器センター機能を具体的に検討する。
- 6) **診療連携、医師教育、看護教育、大学院、研究の5つのテーマについて、国立がん研究センターとの更なる連携強化に努める。**
- 7) **適正な保険診療の推進のため、保険診療適正化プロジェクトを立ち上げる。**
- 8) **職種間の協力体制の強化・推進**
 - ・チーム医療を実践するための人材育成を推進する。
 - ・院内連携・情報共有を強化する。
 - ・周術期センター設立を検討し、術前の効率的な診療体制を整備する。
- 9) **ICT技術を活用し、医療の効率化とモバイル環境の整備を推進する。**
- 10) **予防医学に携わる専門職の修得および人材を育成する。**
 - ・予防医学に携わる専門資格の習得および人材を育成する。
 - ・健康増進（運動・栄養・メンタル）に関する事業計画について、引き続き検討する。
- 11) **港区総合災害訓練の実施**
- 12) **経営の質の改善**
 - ・各診療部の数値目標を設定し達成する。
 - ・財政基盤を確立する。
 - ・医業利益目標を達成する。
 - ・医薬品、医療材料の適正使用、ならびに後発医薬品の数量シェア目標を達成する。
 - ・効率的な病床運用により稼働率を向上させる。
 - ・コストマネージメント・プロジェクトで取り組んでいる計画を実行し、附属4病院における医療材料の物流を効率的に運用する。

■医療に関する重点施策 葛飾医療センター

- 1) 医療安全・感染対策の推進
 - ・医療安全・感染対策を検証し、有効で効率的な取組みを構築し、実践する。
- 2) 総合内科体制の再構築
 - ・総合内科体制の再構築に向け、関連部署との協議を推進する。
- 3) 救急体制の充実
 - ・断らない救急受入れ体制を強化する。
 - ・救急病床を再編し患者受入れの効率化を図る。
- 4) がん医療の推進
 - ・がん診療に関する専門職の育成、ならびにがん診療体制の維持・向上を図る。
 - ・乳がん看護ならびに緩和ケアの認定看護師により質的向上を図る。
- 5) 病院機能評価受審結果の検証
 - ・病院機能評価の受審結果を検証し、継続的に改善に取り組む。
- 6) 患者サービスの推進
 - ・患者のニーズに適応したサービスを提供し情報発信する。
 - ・全教職員に対し病院コンセプトを継続的に周知する。
- 7) 地域貢献（医療連携の推進）
 - ・看護体制を整備し、各フロアに退院調整に係わる看護師を一人配置し、退院調整に関する精度を上げる。
 - ・関連する訪問看護ステーションとの定期的な意見交換のための会を開催し、関係を深め患者の退院支援につなげる。
 - ・訪問看護ステーションとの相互研修を継続する。
 - ・小児領域の在宅調整について精度の向上を図る。
- 8) 災害拠点病院としての地域支援と連携強化
 - ・葛飾区との総合防災訓練ならびに地元自治会との合同防災訓練に参加し、地域支援・連携体制を強化する。
- 9) 職種間の協力体制の構築
 - ・チーム医療を実践するための人材育成を推進する。
 - ・透析看護ならびに集中ケアの認定看護師を配置し、チーム医療の質的向上を図る。
- 10) 適正な保険診療の推進
 - ・DPC算定を含めた適正な保険診療の推進について、教育・研修により周知徹底する。
- 11) 適正な収支構造の確立
 - ・每期設定される医療収支・医業利益目標を達成する。
 - ・医薬品の適正使用ならびに後発医薬品の採用を推進する。
 - ・SPD委託会社の附属4病院統一化およびベンチマークなどにより医療経費率を低減する。

■医療に関する重点施策 第三病院

1) 医療安全・感染対策の推進

- ・医療安全・感染対策を検証し、有効で効率的な取組みを構築し、実践する。

2) 救急医療体制の充実

- ・救急応需の連絡体制を点検し搬送連絡時間短縮策を講ずる。
- ・救急隊との連携を密に、断らない救急応需の体制を整備する。

3) がん診療の推進

- ・国指定の「地域がん診療連携拠点病院」認可に向けて、北多摩南部医療圏における拠点病院との連携・相乗効果を創出する。

4) 認知症疾患医療センターの強化

- ・認知症に係わる相談体制をより強化する。
- ・狛江市の認知症初期集中支援チームをサポートする。

5) 地域医療連携の推進

- ・新規開業医療機関を訪問し、初診紹介患者増加を目的とした地域医療連携拡大を図る。
- ・健診施設を訪問し、初診紹介患者増加を目的とした連携関係を構築する。
- ・診療データ開示承諾書を整備し、web予約医療機関にデータ開示のメリットを提示することにより、web予約医療機関の拡大を図り病診連携を強化する。
- ・地域包括ケアシステム構築に向けて、行政と連携しながら地域医療に貢献する。

6) 新しい専門医制度に対応した総合診療研修センターの整備

- ・平成30年度開始予定の総合診療研修プログラムを完成させる。
- ・総合診療専門医採用に向けた説明会の実施、採用活動を行う。

7) 共感と思いやりに基づく医療（Empathy Based Medicine）の実践

- ・前年度未受講者を対象にしたセミナーを実施し、教職員の実践力拡大に努める。
- ・患者満足度調査の附属4病院様式統一に向けた内容を見直す。
- ・附属4病院との運用連携を図り、ベンチマークを実施する。
- ・教職員の患者への声掛け等の対応力向上を目指して、スローガンを掲げるなど具体策を検討する。

8) 医療経費率の適正化を図る

- ・後発医薬品の導入、高額薬の効果を予測するコンパニオン診断薬やバイオ後続品などを活用する。また、医薬品の適正価格での購入により無駄のない在庫管理を実施する。
- ・SPDによる共同購入を行うことにより、適正な購入と在庫管理を行う。また、手術室などにおける在庫管理を徹底し、材料が無駄にならないよう努める。

9) 新病院の基本計画・基本構想策定

- ・ワーキンググループの設置、他病院見学などリニューアルに向けて具体的に取り組む。

■医療に関する重点施策 柏病院

1) 医療安全・感染対策の推進

- ・医療安全・感染対策を検証し、有効で効率的な取組みを構築し、実践する。

2) 救急体制の充実

- ・救急患者を積極的に受入れるためにER診療体制を充実する。
- ・救命救急センターとしての機能を強化し、地域医療に貢献する。

3) がん医療の推進

- ・がん診療連携拠点病院として必要な質の高い診療を実践する。
- ・国立がん研究センター東病院との連携を強化し、がん診療、研究、人材育成の充実を図る。

4) 周産期医療の整備と推進

- ・改修した4B病棟を活用し、産科医療の充実を図る。
- ・東葛北部地域における周産期医療の現状を鑑み、妊娠、出産から新生児に至る高度専門的な「周産期医療」が提供できる診療体制を積極的に検討する。

5) 患者サービスの推進

- ・医療者のモラルと接遇マナーの向上を図る。

6) 地域貢献（医療連携の推進）

- ・先駆的に実践しているPFMシステムを更に推進する。
- ・地域医療ニーズに応えられるように医療連携および診療体制の改善充実を図る。
- ・地域包括医療を推進する。
- ・前年度実施した医療機関訪問の結果を職員に周知し、連携を推進するためのシステムを構築する。
- ・地域の多職種を交えた交流の場（勉強会など）を設け継続して開催する。

7) 災害拠点病院として行政や医療機関と連携し地域を支援する。

8) 職種間の協力体制の構築

- ・チーム医療を構築するための人材育成を推進する。

9) 適正な保険医療の推進

- ・適正な保険診療を推進するため、保険診療の基本ルールを教育・研修により周知・徹底する。

10) 経営の質の改善

- ・每期設定される医業利益目標を達成する。

11) 医療経費の削減の推進

- ・医薬品の適正使用、ならびに後発医薬品の採用を推進する。
- ・特殊材料の使用状況と保険請求状況のチェック機能を強化する。
- ・SPD業者の統一に合わせ、共同購入の推進、購入価格の見直し、不動在庫の削減、配置在庫の適正化を行い経費削減を図る。
- ・コストマネージメント・プロジェクトで取り組んでいる計画を実行し、教職員へのコスト意識醸成と附属4病院医材・物流ワーキンググループを活用し、医療材料・物流の効率的運用を強化する。

12) 第二次柏病院将来構想計画を推進

- ・持続的に医療収入増加が可能な体制整備と施設改修計画を策定する。

13) 手術室の効率的運用

- ・安全を確保しつつ外来手術センターの有効利用を推進する。
- ・土曜日の手術実施を検討する。

14) 施設、設備の整備・拡充

- ・効率的な病床運用、患者アメニティの向上、室料差額床の増床など、病棟の改修計画を策定する。
- ・画像診断機器の効率的な運用を推進する。

■法人運営に関する重点施策

1) 内部統制の強化

- ・法人・大学・病院のガバナンス体制の強化を目指し、寄附行為、関連規程の見直しを行う。
- ・研究倫理教育の充実と情報セキュリティの強化を継続的に進める。

2) 安定した財政基盤の構築

- ・法人における収支構造の点検を行う。
- ・機関別の事業計画に基づく長期資金計画を策定する。
- ・医療収入の増加と医療経費の削減を図り、堅調な財政基盤を維持する。
- ・ICT関連経費の適正化を図る。

3) 西新橋キャンパス再整備計画の実行

- ・医局、臨床ラボ、理事室、講堂などの移転作業を行い、新大学2号館（仮称）の供用を計画通り開始する。
- ・新病院（小児・周産期医療センター）（仮称）の施工を遅滞なく進める。
- ・新外来棟・中央棟他機能拡充整備工事の実施設計を進め、大学本館（解剖学棟を除く）、旧図書館、大学2号館を解体し、平成30年1月より新外来棟建設に計画通り着工する。

4) 大学マスタープランの策定

- ・新外来棟における次世代医療の具現化に向けて検討する。

5) 教職員の満足度向上

- ・雇用形態ごとに処遇を検証し、改善を図る。

6) 人材育成制度の強化

- ・階層別研修内容の充実を図る。
- ・患者等の期待値を常に意識し、サービスに反映するために接遇に関する研修会を開催する。

7) 業務改善の推進

- ・各部署での業務効率化を目指し、業務改善の風土が醸成されるよう労働生産性向上活動を継続する。

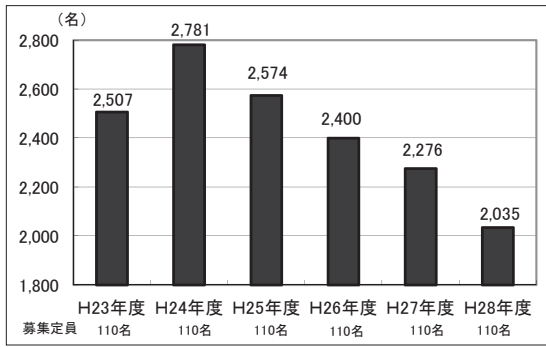
8) 戦略的広報の推進

- ・医療機関向けの「医療連携」、患者向けの「診療内容」、受験生向けの「学部案内、受験情報」、研究者向けの「URA構想」など、事業計画と連動した戦略的な情報を発信する。
- ・現行のホームページを見直す。

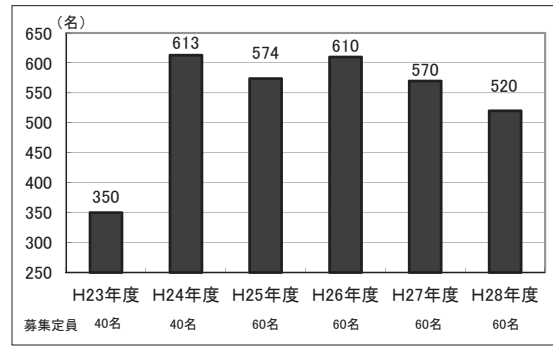
9) 西新橋再整備計画の進行に伴う大規模災害対策の確立とBCP（事業継続計画）の保守・点検

■ 教育に関する重点施策：参考指標

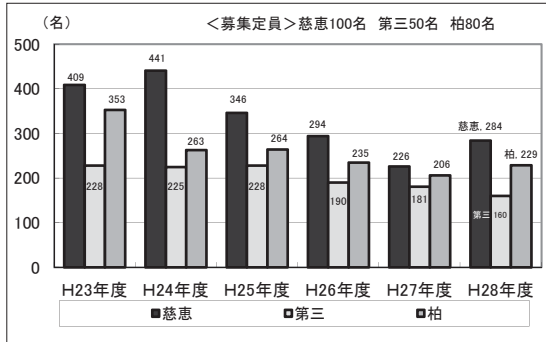
医学科志願者数（実施年度）



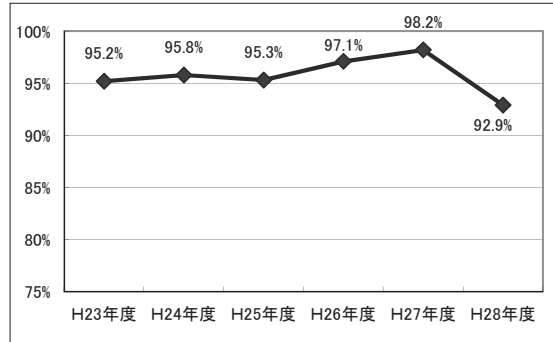
看護学科志願者数（実施年度）



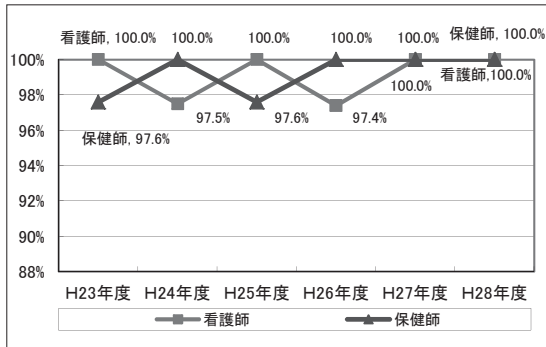
看護専門学校志願者数（実施年度）



医師国家試験合格率（医学科）（実施年度）

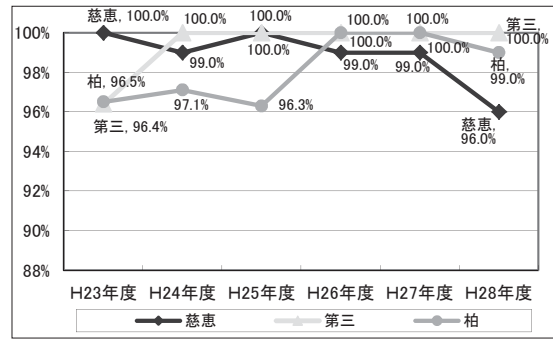


看護師・保健師国家試験合格率（看護学科）（実施年度）



※H28年度 国家試験全国平均 88.7%

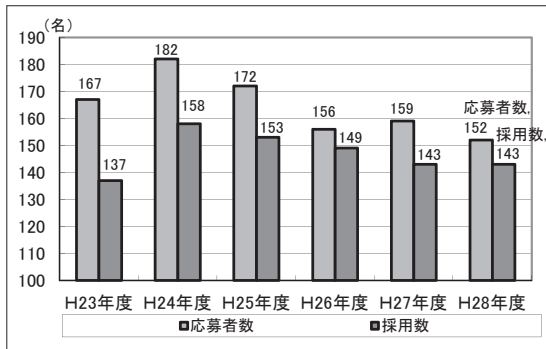
看護師国家試験合格率（看護専門学校）（実施年度）



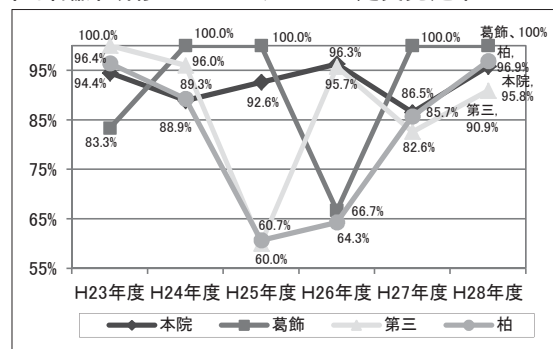
※H28年度 国家試験全国平均 看護師88.5% 保健師90.8%

※H28年度 国家試験全国平均 88.5%

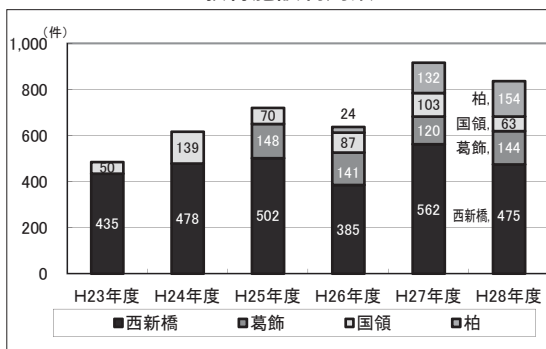
レジデント応募者数、採用数



医師臨床研修マッチングによる定員充足率



シミュレーション教育施設利用数



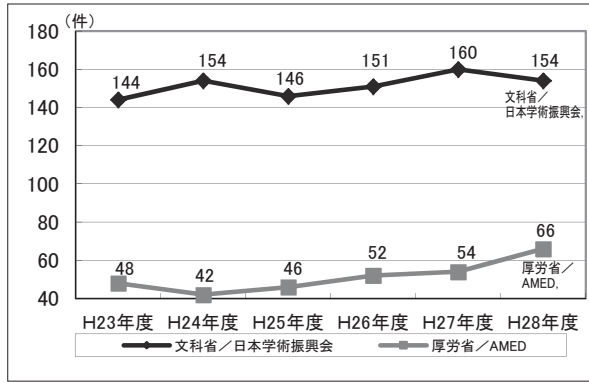
定員	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年
本院	54	54	54	54	52	48
葛飾	6	6	6	6	6	8
第三	25	25	25	23	23	22
柏	28	28	28	28	28	32

※各機関の年度の定員数を表示

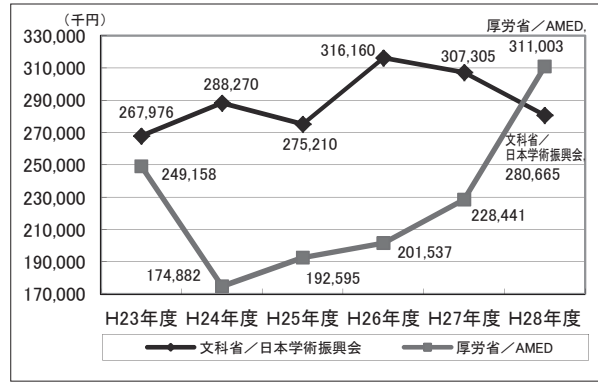
※葛飾医療センターはH25年度、柏キャンパスはH26年10月より稼働

■研究に関する重点施策：参考指標

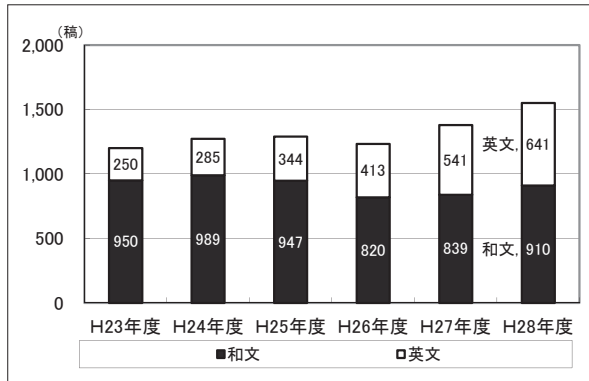
科学研究費補助金 採択件数



科学研究費補助金 採択金額

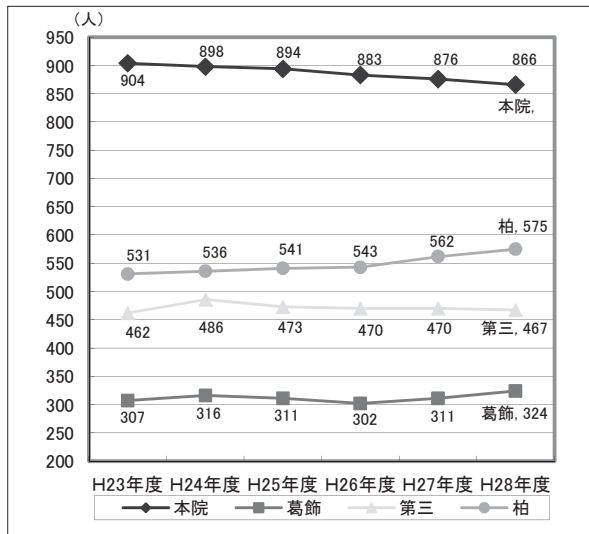


論文発表数

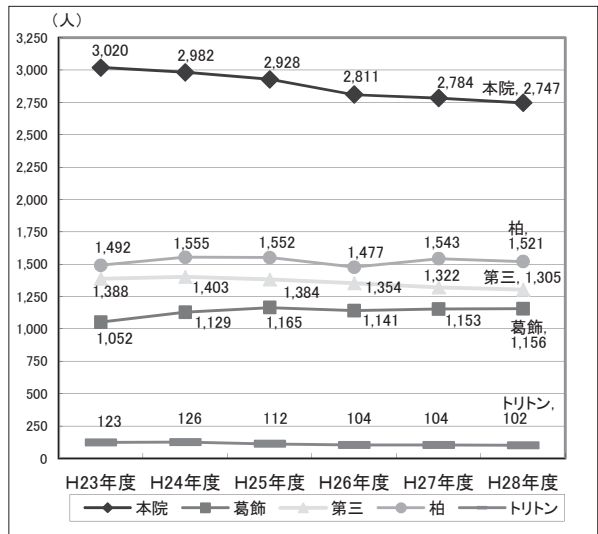


■医療に関する重点施策：参考指標

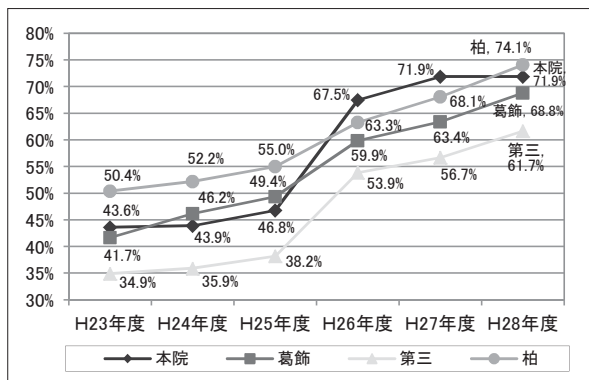
【入院】 1日平均患者数



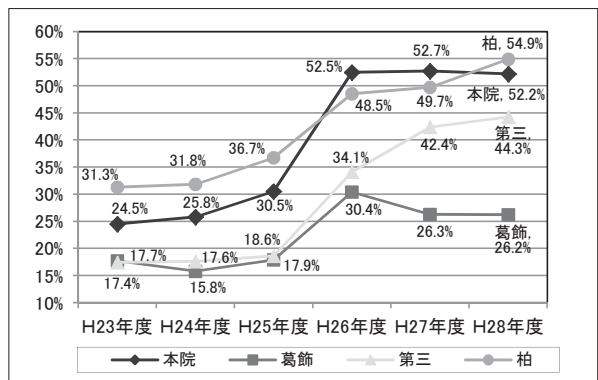
【外来】 1日平均患者数



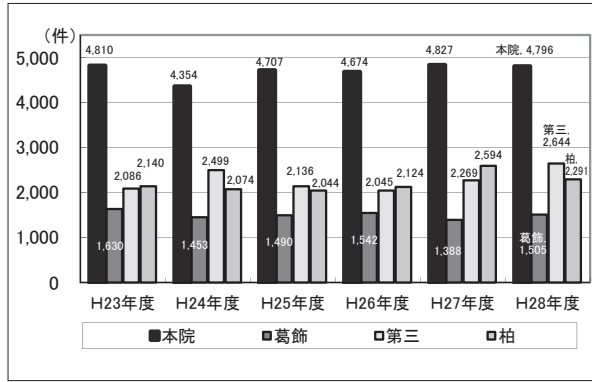
紹介率（保険法）



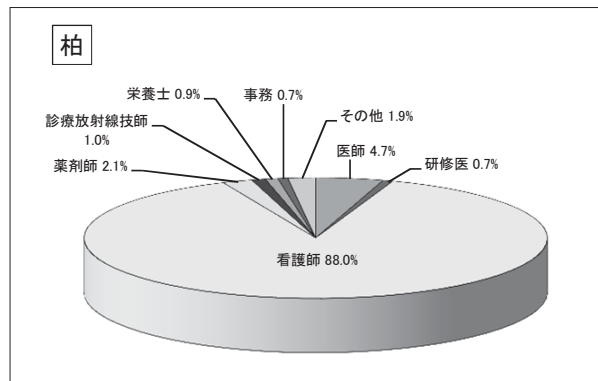
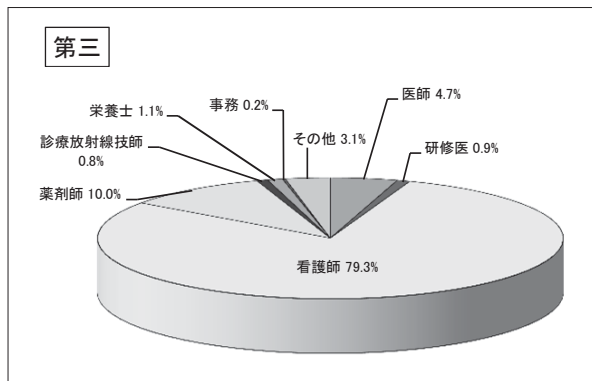
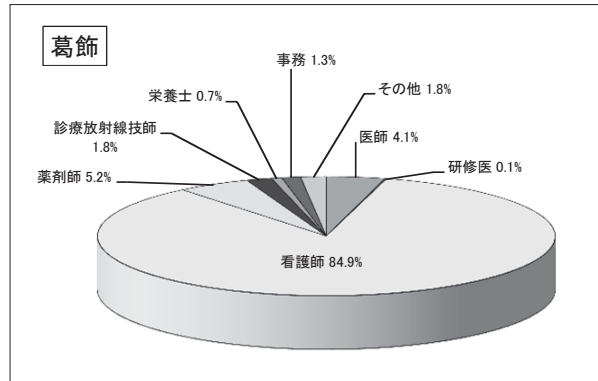
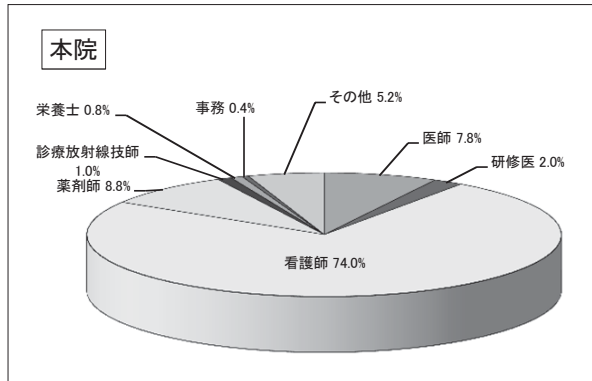
逆紹介率（保険法）



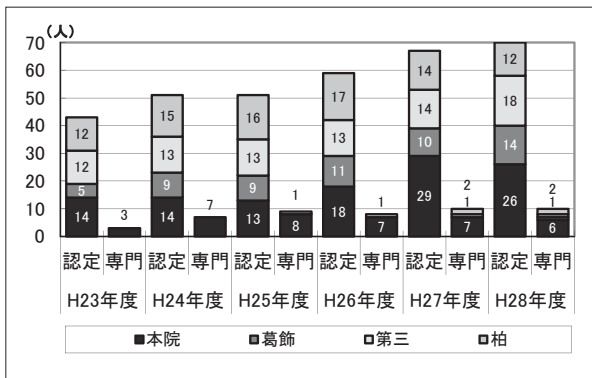
インシデント・アクシデント報告件数



インシデント・アクシデント報告職種別報告件数

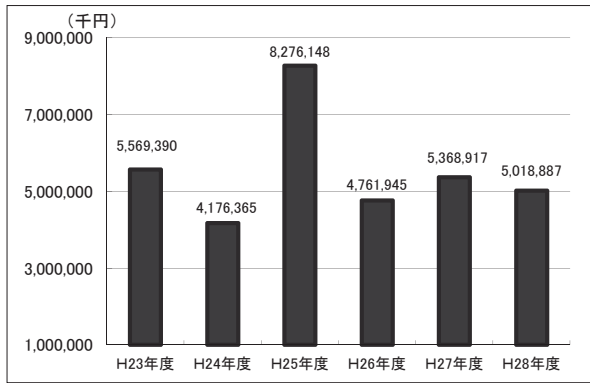


認定看護師数、専門看護師数

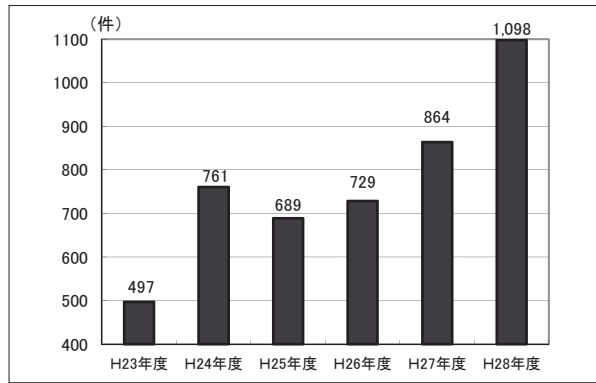


■法人運営に関する重点施策：参考指標

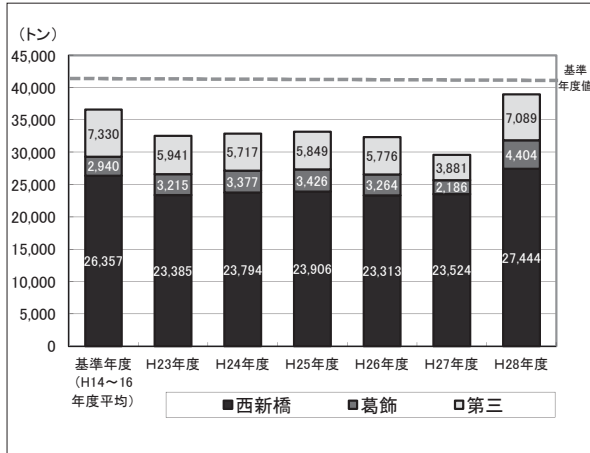
基本金組入前当年度収支差額



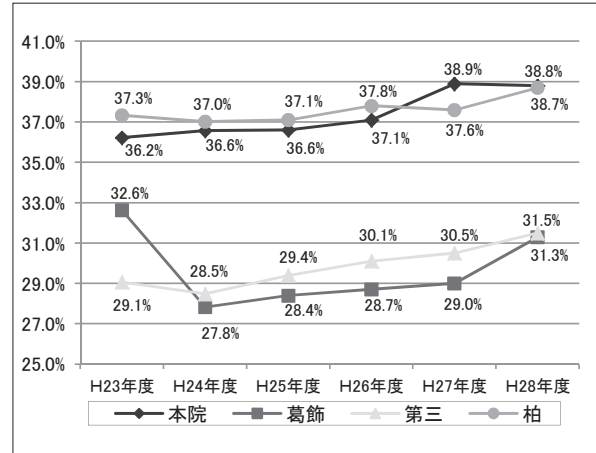
メディア掲出件数



CO₂排出量 (東京都環境確保条例対応)



医療経費率



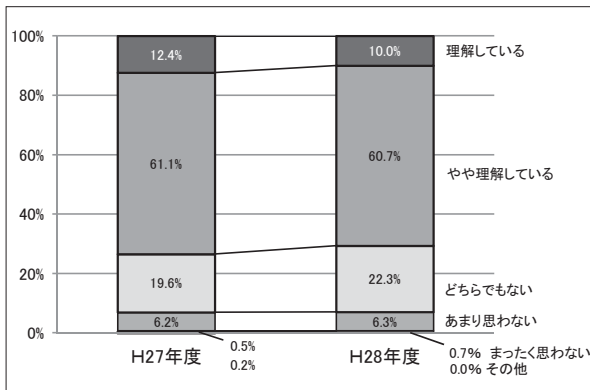
※H28年度はCO₂基準排出量の計算方法が変更となった

※文部科学省への届出計算書より算出
※衛生管理収入を含む

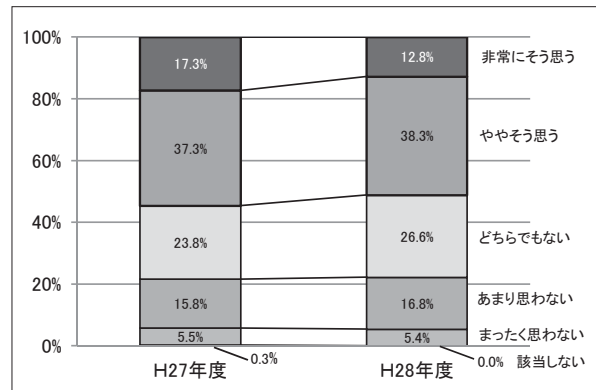
教職員アンケート結果

※回答率 H27年度 71.8% H28年度 73.5%

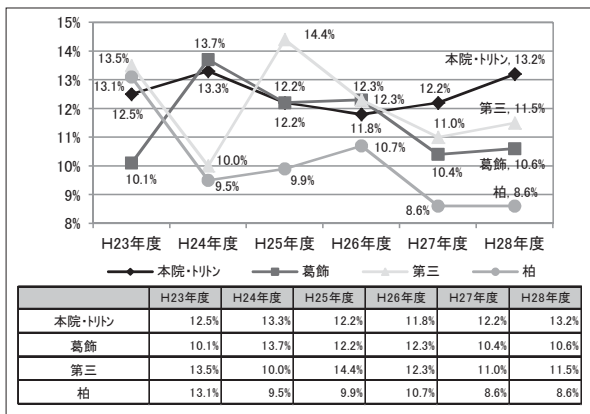
あなたは大学(病院)の理念・使命・目標などを理解していますか？



あなたは、今の部署でこれからも働きたいと思いませんか？



看護師離職率



中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標(平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標 1. 教育に関する目標 (1) 教育に関する目標(医学科・看護学科) ○卒前教育 ・将来を見据えて教育理念・教育目標を再構築し、教育の質の向上を図る。 ・問題解決能力を涵養する。 ・高い臨床能力を涵養する。 ・自ら学ぶ態度を涵養する。 ・大学間連携を推進する。 ・厳正で適切な評価システムを構築する。 ・国際基準に適合した医師・看護師教育を実施する。 ・医師・看護師・保健師国家試験合格率の向上を図る。 ・優れた人材の獲得に向けて医学科・看護学科の入学試験方法を改善する。 ・医療人に相応しい人格と社会性を涵養する。 ・多様な進路に対応したカリキュラムを提供する。(研究医・国際貢献など) ・知性と社会性を身につけた医師・看護師を育成するための方策を策定する。	・教育内容公開数 H25:1 H26:1 H27:1 H28:1 H29:1 ・連携大学数 H25:11 H26:14 H27:21 H28:23 H29:24 ・留学生の受入数 H25:43 H26:44 H27:65 H28:102 H29:70 ・臨床実習(週・時間)数 (医学科) H25:60週 H26:62週 H27:75週 H28:75週 H29:75週 (看護学科) H25:1,260時間 H26:1,260時間 H27:1,260時間 H28:1,260時間 H29:1,260時間 ・医学科志願者数 H25:2,574名 H26:2,400名 H27:2,276名 H28:2,035名 H29:2,200名 ・看護学科志願者数 H25:574名 H26:610名 H27:570名 H28:520名 H29:570名 ・医師国家試験合格率 (医学科総計) H25:95.3% H26:97.1% H27:98.2% H28:92.9% H29:100% (医学科新卒) H25:97.1% H26:99.0% H27:100% H28:94.8% H29:100%	①初年次教育を改善する。	学事課 学事課	教学委員会 教学委員会	(医学科・看護学科) スタートアップ研修の改正点について、成果を検証し評価する。 (医学科) 実践的英語教育のための授業改善を行う。 (看護学科) 新カリキュラムに対応した内容が継続して評価する。
		②将来を見据えた大学の理念に沿って教育理念・教育目標を再構築する。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会	(医学科) ディプロマポリシーに沿ったマイルストーンを作成する。
		③知識偏重から知識の展開力を重視した教育に切替える。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会 教育センター	(医学科) 1. ログブック、e-ポートフォリオシステムを改善する。 2. e-ポートフォリオシステムの分析結果を指導教員にフィードバックする。 3. 臨床実習におけるEBM活用FDを開催し、指導医の知識展開指導能力を養成する。 (看護学科) 1. 学生との合同会議、ディプロマポリシーモニタリング会議を行い、評価する。 2. 新カリキュラムで変更が予定されている疾病治療論の履修状況を確認し、看護専門科目との連動を円滑にする。 3. 新カリキュラムへの移行を円滑に行うため、シラバス内容に基づく評価を実施し、新カリキュラムにおけるディプロマポリシー保証状況を確認、改善する。
		④診療参加型臨床実習を中心に臨床実習を拡充する。附属病院の教育機能を充実させる。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会 教育センター	(医学科) 1. 診療参加型臨床実習後の総合的臨床能力試験として、Post-CC OSCE(卒業時OSCE)を実施する。 2. 診療参加型臨床実習における包括同意書の運用を導入する。 3. 4年次9月から6年次7月までの約2年間に亘る臨床実習e-ポートフォリオシステムを完成させ、蓄積情報を分析、活用する。
		⑤自己学習を促進する教育手法を導入する。	学事課	教育センター 教学委員会	(医学科) 1. e-ラーニングシステムを活用した事前学修や反転授業を促進する。 2. 学生カルテシステムを活用し臨床実習における主体的学修を推進する。
		⑥学生の主体性および個性を尊重した教育を実施する。	学事課	教育センター 教学委員会	(看護学科) 新しいディプロマポリシー、各科目の到達度とe-ポートフォリオシステムを連動させ、学生が主体的に活用できるよう改良する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
	<p>・看護師国家試験合格率 (看護学科) H25:100% H26:97.4% H27:100% H28:100% H29:100%</p> <p>・保健師国家試験合格率 (看護学科) H25:97.6% H26:100% H27:100% H28:100% H29:100%</p>	⑦学習記録と連携させた評価システムを構築する。	学事課	教育センター 教学委員会 科目横断評価 プロジェクト	<p>(医学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> EXAMBASEシステムを利用し、問題作成者に試験後の問題分析結果をフィードバックする運用を確立する。 新大学2号館講堂でもコンピュータ試験を導入し、新カリキュラムの総合試験評価システムを完成させる。 <p>(看護学科)</p> <p>2年生から4年生を対象とした科目横断総合試験、e-ポートフォリオシステムでのリフレクション時に、学習成果物のエビデンスを活かせるように、教員ならびに学生への周知を強化する。</p>
		⑧医学教育と連携した外国語教育の改善を図る。医学生・看護学生の国外留学を支援すると共に、外国の留学生を積極的に受入れる。	学事課	教学委員会 国際交流センター 運営委員会	<p>(医学科)</p> <p>ネイティブ英語模擬患者によるOSCEのカリキュラム化(選択科目化)を検討する。</p> <p>(看護学科)</p> <p>英国キングスコレッジロンドンから1名、本学から1名の交換留学を実施する。</p>
		⑨学生の国家試験準備への支援体制を整備する。	学事課	教育センター 教学委員会 学生委員会	<p>(医学科)</p> <p>コース「医学総論VI」の新ユニット「国家試験ガイダンス」を開設する。</p> <p>(看護学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 学生の国家試験委員を中心として、主体的に模擬試験、補講を実施する。 模擬試験の結果が芳しくない学生に、個人面談などの指導を繰り返し実施する。 科目横断総合試験を低学年から効果的に活用する。
		⑩入学試験方法を継続的に改善する。	学事課	入試検討委員会	<p>(医学科)</p> <p>入学試験二次試験方法の変更について、評価分析を行う。</p> <p>(看護学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護系大学の前年度入試および当該年度全国統一模擬試験の動向における本学の位置付けや状況について、予備校に分析を依頼し、説明会を開催するとともに、その結果を次の入学試験に反映させる。 学生アンケート、座談会による情報収集を継続し、入試広報、入試科目の検討を継続する。
		⑪医師のプロフェッショナルリズムを意識した人格教育・社会教育を充実させる。	学事課	教学委員会 カリキュラム 委員会	<p>(医学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> ディプロマポリシーの基準に沿ったマイルストーンを作成する。 教養教育および医療倫理演習のあり方を検討する。 <p>(看護学科)</p> <p>医学科のカリキュラム進度に合わせて、医療倫理実習を4年次前期に実施する。</p>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画	
中 期 目 標	指 標 (平成29年度は目標値)	中 期 計 画	主体部署	関連部署・委員会等		
		⑫臨床実習の拡充に併せ研究医養成コース・グローバルヘルスコースなどの選択の幅を広げる。	学事課	カリキュラム委員会	(医学科) 診療参加型臨床実習期間中における基礎系講座の選択について、運用を確立するとともに学生へ周知する。 (看護学科) 1. 継続的に選択科目を開講し選択の幅、内容の充実を図る。 2. 開講時期を変更した科目の学習効果を評価し、必要に応じて改善を試みる。	
		⑬広報活動に努め、看護学科の受験倍率の確保を図る。	学事課	広報課 広報委員会	(看護学科) 効果的な大学PRとすべく、オープンキャンパスの企画、ならびに受験生応援サイトの管理運営のシステムを作る。	
		⑭国際基準に基づく医学教育のIR活動を充実させる。	教育センター		医学科教育情報と卒業生アンケート情報を整理し、教学委員会に情報提供する。	
○大学院教育	<ul style="list-style-type: none"> 臨床を支える研究を推進する。 高い倫理観と判断力、基礎研究、臨床研究に優れた研究者を育成する。 研究者育成のための実効ある方策を立てる。 社会に開かれた大学院として、生涯学習の場を提供する。 大学院教育のカリキュラム評価システムを構築する。 看護実践を支える看護研究を推進する。 大学院間連携を図り、幅広い研究を可能とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 改訂プログラム数 H25：2件 H26：10件 H27：2件 H28：1件 H29：1件 大学院生数 H25：133名 H26：135名 H27：130名 H28：144名 H29：149名 学位授与数 H25：62名 H26：49名 H27：53名 H28：69名 H29：60名 学位論文のインパクトファクター(平均) H25：3.55 H26：2.73 H27：3.09 H28：2.47 H29：3.00 	①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。トランスレーショナル研究を推進する環境を整備する。	教育センター	大学院委員会	がんプロフェッショナル養成の教育プログラムを検討する。
			②研究者として必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムの充実を図る。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 1. CITI-Japanを活用して倫理教育を推進する。 2. 大学院特別講義を充実させ、研究者として必要な倫理観や判断力を養成する。 3. 研究者養成のため、MD-PhDコースを新設し、入学生募集を開始する。
			③共通カリキュラムの改善を図る。教職員を対象とした公開講義を積極的に行う。	教育センター		がんチーム医療における倫理教育の見直しを図る。
			④社会人入学の推進を図る。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 1. 大学院生の意見を参考に共通カリキュラムの授業開講時間を改善する。 2. 共通カリキュラムの選択科目として、英語論文作成方法のカリキュラムを新設する。 3. 倫理指針や実験指針の変更点を共通カリキュラムの内容に反映させ、公開講座を開講する。
			⑤看護学の大学院における「教育・研究」を改善し質を高める。	学事課	大学院委員会	連携大学院生に対して、共通カリキュラムを提供する。 授業細目「地域プライマリケア医学」において、総合医療に関するリサーチマインドを向上させるプログラムを実施する。
					1. 看護学系専攻博士課程設置に向けた準備を行う。 2. 看護学専攻修士課程における高度実践看護師教育課程・在宅看護専攻の申請を行う。 3. 看護研究学習会を慈恵看護研究会と合同で開催する。 4. 看護学専攻修士課程における一部の授業科目を公開講義とする。	

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成29年度事業計画

中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等		
○卒業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業教育機関としての質の向上を目指す。 ・卒業教育カリキュラムを改善し公開する。 ・同窓および地域医療者に生涯学習の場を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レジデント応募者数 H25:172名 H26:156名 H27:159名 H28:152名 H29:160名 ・レジデント採用数 H25:153名 H26:149名 H27:143名 H28:143名 H29:140名 ・医師臨床研修マッチングにおける定員充足率 H25:78% H26:86% H27:86% H28:95% H29:90% 	<p>①初期臨床研修プログラムならびに指導体制の更なる充実を図り学内外の医学生に公開する。</p> <p>②専門修得コース(レジデント)における各科プログラムの更なる充実を図り学内外の研修医等に公開する。</p> <p>③看護における臨床技能を高めるための研修を実施する。</p>	<p>臨床研修センター</p> <p>臨床研修センター</p> <p>教育センター</p>	<p>教育センター</p> <p>慈恵看護教育あり方会議</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研修医に対し、新専門医制度説明の機会を設ける。 2. 指導医講習会を開催し、附属4病院より臨床研修指導教員合計40名の受講を目指す。 3. 地域医療研修における協力施設の拡充を図る。 4. 採用時OSCE、集合シミュレーション教育、医療安全e-ラーニングを各1回実施する。 5. 研修医にメンターを付けて指導する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度実施の新専門医制度の研修プログラムを収集整理し、冊子、ホームページの掲載内容を刷新する。 2. レジデント1年目を対象に医療安全・屋根瓦教育FDを開催する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 新人看護師技術研修プログラムの評価を行う。 2. 指導者養成および看護マネジメント向上の段階的研修を行う。 3. 認定看護管理者教育機関の認定申請を行う。
(2) 教育の実施体制等に関する目標	<ul style="list-style-type: none"> ・e-ラーニング実施数 H25:279件 H26:335件 H27:359件 H28:382件 H29:390件 ・シミュレーション教育施設利用数 H25:659回 H26:637回 H27:917回 H28:836回 H29:840回 ・医学教育セミナーの開催数 H25:1回 H26:3回 H27:2回 H28:4回 H29:4回 	<p>①臨床実習を行う学外の協力病院におけるFDを導入する。</p> <p>②教員評価制度の運用に基づく体系的人事制度を構築する。</p>	<p>学事課</p> <p>教育センター</p> <p>教員・医師人事室</p>	<p>教学委員会 臨地実習委員会 公開講座委員会</p> <p>教育センター</p>	<p>(学事課) 協力病院と学生から診療参加型臨床実習のフィードバックをもらい、分析および評価を行う。</p> <p>(看護学科) 学外の実習施設からも参加できるよう臨地実習教育連絡会を開催し、活発な情報交換を行う。</p> <p>診療参加型臨床実習の学生アンケート結果、担当症例、経験症候などの学習情報を教育病院にフィードバックし、出張FDを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初期臨床研修医・レジデント採用時の審査方法を見直す。 2. レジデント1年目から3年目に対して評価を実施する。 	
(3) 自己点検・評価の充実に関する目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価結果を公表し、改善につなげる。 	<p>①自己点検・評価を公表し、運営(中期目標・計画、支援、設備整備等)に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。</p> <p>②平成28年度に大学基準協会の認証評価を受審する。</p>	<p>大学事務部</p>	<p>大学自己点検・評価委員会</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学基準協会の認証評価受審結果を公表し、大学の情報公開を進める。 2. 大学自己点検・評価委員会の機能強化を図るとともに、大学基準協会評価受審結果を参考にして改善を進める。 	

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(4) 看護専門学校に関する目標 ・看護専門学校の教育の向上を図る。 ・優秀な学生を確保する。	・看護師国家試験合格率 (慈恵) H25:100% H26:99.0% H27:99.0% (既卒1名含) H28:96.0% (既卒1名含) H29:100% (第三) H25:100% H26:100% H27:100% H28:100% H29:100% (柏) H25:96.3% (既卒1名含) H26:100% (既卒3名含) H27:100% H28:99.0% H29:100% (3校平均) H25:98.7% H26:99.6% H27:99.6% H28:98.3% H29:100% ・附属4病院への就職者率 (慈恵) H25:97.8% H26:92.0% H27:99.0% H28:86.5% H29:90.0% (第三) H25:90.9% H26:91.3% H27:92.9% H28:90.4% H29:90.0% (柏) H25:84.0% H26:87.0% H27:92.3% H28:100% H29:90.0% (3校平均) H25:91.5% H26:90.1% H27:94.7% H28:92.3% H29:90.0%	①看護実践を重視した看護教育を行う。	看護専門学校		看護実践能力向上に向けて技術習得が行えるように、履修の場が学内に限定される技術と、臨地実習でも履修可能な技術について引き続き検討する。
		②附属4病院を活用した臨地実習カリキュラムを検討する。	看護専門学校		附属4病院病棟実習に加え、外来、医療連携部門における実習機会を充実させる。
		③学生生活を支援する。	看護専門学校		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験合格、就職希望者内定取得率100%を堅持する。 2. 休学者、退学者数、未履修者数を減少させる。 3. 学習上の課題を持つ学生が、自己の目標をもって学習できるようきめ細かく支援する。
		④学生確保のための活動を行う。	看護専門学校	広報課	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受験生確保、質の高い学生確保の観点からインターネットを活用した学校広報活動の内容を充実させる。 2. 推薦指定校との連携強化に努め、着実に学生を確保する。
		⑤看護教員の確保に努める。	看護専門学校		<ol style="list-style-type: none"> 1. 附属4病院看護部内から教員養成受講者を推薦、派遣できるようにする。 2. 看護専門学校における教員資質を向上させるため、研修機会を設ける。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成29年度事業計画

中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	平成29年度事業計画
2. 研究に関する目標 (1) 研究水準および研究成果に関する目標 ・国際的な視野に立った先進的研究を推進する。 ・質の高い基礎医学および臨床医学研究を振興する。 ・外部競争的資金の獲得を支援する。	・ 文部科学省科学研究費補助金 採択件数 H25:146件 H26:151件 H27:160件 H28:154件 H29:170件 ・ 論文発表数 H25:1,291稿 H26:1,233稿 H27:1,380稿 H28:1,551稿	①本学にとって特色ある研究領域を識別し、重点的に推進していく。	研究支援課 学事課	大学院委員会 大型プロジェクト対策委員会	1. 研究アドミニストレーション部門を円滑に稼働させ、研究費の獲得を推進する。 2. 関連部署と連携して私立大学研究ブランディング事業の採択を目指す。
		②本学の強みを活かし、研究領域の社会還元を实践する。	学事課 研究支援課	学長諮問会議 総合診療内科	1. 本学のブランドを活かした研究活動を検討する。 2. URAによる産学間連携・知的財産管理を開始して、研究成果の社会への還元を目指す。
			教育センター		平成30年度専門医制度施行に向けて、総合診療専門医のための研究体制を構築する。
			臨床検査 医学講座・ 病理学講座・放射線 医学講座	研究支援課	臨床データの収集管理によって研究を促進し、研究のハブ機能を果たす。
			臨床検査 医学講座		研究予算および中心となる研究要員を確保し、臨床検査データ、画像データの新規収集・統合システムを試す。
		③学内研究費を活用し、それぞれの研究層に応じた競争的資金の獲得を支援する。	学事課 研究支援課	学長諮問会議 研究奨励費委員会 大学院委員会	1. 大学院での研究を活性化させ、外部資金の獲得を促進するため、医学研究科研究推進費による支援を行う。 2. 臨床講座に対し科研費採択を促進するため、基礎講座との連携を図り、萌芽的共同研究推進費による支援を行う。 3. 医学研究科研究推進費、萌芽的共同研究推進費、戦略的重点配分研究費、研究奨励費による競争的研究費の獲得が適切に促進されたか検証を行う。
			研究支援課		1. 学長主導により特色ある研究課題を戦略的・重点的に推進するために、戦略的重点配分研究費による支援を行う。 2. 研究奨励費、医学研究科研究推進費および萌芽的共同研究推進費に係わる効果を点検・評価し、本システムの改善および当該教員の指導、アドバイスを行う。 3. 科研費採択を促進するために、研究奨励費による支援を行う。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画	
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等		
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標	<ul style="list-style-type: none"> ・透明性・公正性・中立性の高い研究を推進する。 ・研究環境を整備する。 ・先進的研究実施体制を構築する。 ・寄付講座制度を活用する。 ・医師の研究時間を確保するために効率的な人員配置をする。 ・学内横断的研究プロジェクトを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型プロジェクト研究事業の採択数 H25：1件 H26：0件 H27：0件 H28：2件 H29：1件 ・寄付講座設置数 H25：2講座 H26：2講座 H27：2講座 H28：0講座 H29：1講座 	①研究者としての高い倫理観を涵養するために必要な体制整備と本体制による対策の実施、状況のモニタリングを行う。	研究支援課	研究倫理推進センター 研究適正化特別委員会	研究倫理推進センターが主体となり、研究費を適正かつ公正に管理・運用するための啓発活動を継続する。
				監査室		研究倫理推進センターと研究適正化特別委員会が連携し、適正な研究を行うための体制整備と実施状況の点検を継続して行う。
				学術情報センター		論文の剽窃・盗用防止ソフトを活用し、研究倫理の教育・啓発活動を促進する。
			②研究アドミニストレーション部門を設置し、研究支援の強化を図る。	研究支援課		<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究IR機能を構築し、研究業績を分析した上で研究戦略を立案する。 2. URAによる研究費マッチングや産学連携マッチングなどを開始して、外部の大型研究費獲得支援を行う。 3. URAによる研究計画調書や申請書の書き方についての支援を開始し、研究費の更なる獲得を目指す。
			③国際競争力のある研究を奨励、支援する。	学術情報センター		論文執筆のためのFDを実施し、よりレベルの高い国際誌への投稿を推進する。
			④学内外の研究連携を促進する。	学事課	大学院委員会	継続して国立がん研究センター、東京理科大学、上智大学、首都大学東京などと連携を強化し、学外共同研究を推進する。
				研究支援課		<ol style="list-style-type: none"> 1. 萌芽的共同研究推進費の支援、大学院における基礎講座への再派遣制度、先端医学推進拠点群の実質化を通じて、学内共同研究の推進を行う。 2. 国立がん研究センター、東京理科大学、上智大学、首都大学東京などと連携を強化し、学外共同研究を推進する。
				看護学科		国領キャンパスおよび各看護部との共同研究を継続する。
				看護専門学校		指導力強化研修の成果を研究として発表できるようにする。
				看護部		学内外と連携し共同研究を実施する。
	看護学専攻修士課程		<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究学習会を慈恵看護研究会と合同で開催する。 2. 一部の授業科目を公開講義とする。 			
⑤臨床研究支援体制を強化し、臨床研究の活性化を支援する。	臨床研究支援センター		<ol style="list-style-type: none"> 1. SS-MIXが導入され次第、疾患レジストリの構築を開始する。 2. 学内各部門の臨床研究支援を行う。 			
	薬物治療学・臨床疫学・分子疫学・環境保健医学	臨床研究支援センター	臨床研究支援センターと協力し、共同研究、コンサルテーション、大学院における人材育成を通じて臨床研究を支援する。			
⑥寄付講座を積極的に活用し、研究の活性化を支援する。	研究支援課		寄付講座を積極的に活用し、研究の活性化を支援する。			

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(3) 総合医科学研究センターに関する目標 ・各研究所・研究室の活動を定期的に点検・評価し、特色ある研究を推進する。 ・競争的研究資金の獲得を目指す。	・総合医科学研究センター研究成果報告会開催数 H25: 0回 H26: 1回 H27: 1回 H28: 2回 H29: 1回 ・学内共同研究数 H25: 35件 H26: 42件 H27: 35件 H28: 33件 H29: 40件	①各部署(研究所・研究部)の活動を点検・評価し、必要に応じて組織の再編を検討していく。	総合医科学研究センター 研究支援課		提出された自己評価報告書を基に改善すべき事項などを部門にフィードバックする。
		②総合医科学研究センター研究部門が主導し、学内の各講座と連携しながら特徴ある研究を推進する。	総合医科学研究センター 研究支援課	総合医科学研究センター(研究部門)	1. 各講座を支援し、共同研究を企画推進する。 2. 各部署が最先端研究を推進し、競争的資金の獲得を目指す。
		③総合医科学研究センター研究支援部門として、大学が戦略的に推進していく研究領域の支援を強化する。	総合医科学研究センター 研究支援課	総合医科学研究センター(支援部門)	1. GMP対応細胞・ベクター産生施設において、新たに細胞治療のプロトコルを開始する。 2. 次世代シーケンサーによる解析およびゲノミクス専門家による支援を強化する。
(4) その他 ・医学・看護に関する情報を公開し社会に貢献する。	・公開講座開催数(一般市民および地域医療者を対象) H25: 37回 H26: 36回 H27: 32回 H28: 25回 H29: 26回	知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。	教育センター	公開講座推進委員会	附属4病院で公開講座を30回以上開催する。
3. 診療に関する目標 ●本院に関する目標 (1) 医療の質の向上を図る。	・先進医療の承認件数 H25: 7件 H26: 6件 H27: 8件 H28: 7件 H29: 9件 DPC病院I群としての各機能評価の充実 ・効率性指数 H25: 0.00565 H26: 0.00857 H27: 0.00970 H28: 0.00955 ・複雑性指数 H25: 0.00000 H26: 0.00000 H27: 0.00010 H28: 0.00000 H29: 0.00010 ・カバー率指数 H25: 0.00476 H26: 0.00932 H27: 0.00968 H28: 0.00963 ・救急医療指数 H25: 0.00226 H26: 0.00464 H27: 0.00473 H28: 0.00459	①特定機能病院としての機能を充実させる。 ②がん診療連携拠点病院としての機能を充実させる。	管理課		1. 新しい特定機能病院承認要件の各項目に対応して、安定運営を図る。 2. 先進医療、患者申出療養、再生医療など、関係法令の改正に対応し、新規申請・実施に向けた診療科への支援体制強化を検討する。 1. 3,600件以上のがん登録を目標とし、がん登録関連情報を学内外に周知する。 2. 就労支援、妊孕性に関するがん相談を軌道に乗せ、相談の質を向上させることにより患者のニーズに応える。 3. 緩和ケア研修会の受講人数増加および緩和ケアチーム会議を定期開催し、更なる緩和ケア体制の拡充、充実を目指す。 4. 情報共有の場を設け、運用について周知徹底することでがん診療連携パスの運用件数の増加と運用拡大を目指す。 5. 国立がん研究センターと更なる連携強化に努め、機能向上を図る。 6. キャンサーボードを定例開催、腫瘍センター機能の更なる向上に努める。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中 期 目 標	指 標 (平成29年度は目標値)	中 期 計 画	主体部署	関連部署・委員会等	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療指数 H25：0.00189 H26：0.00459 H27：0.00504 H28：0.00497 ・DPC地域医療指数・体制評価指数 H25：9.1P H26：9.6P H27：9.6P H28：8.85P H29：8.85P がん診療連携拠点病院 ・5大がん+前立腺がんのパス運用数 H25：51件 H26：87件 H27：57件 H28：77件 H29：80件 ・公開講座数 H25：3回 H26：3回 H27：2回 H28：2回 H29：2回 ・研修医のCPC出席率 H25：95.8% H26：97.9% H27：97.5% H28：96.9% H29：100% ・新規認定看護師資格取得者数 H25：0名 H26：5名 H27：9名 H28：4名 H29：1名 	③人材育成(スキルアップ)を行う。	臨床研修センター		<ul style="list-style-type: none"> 1. 医療安全カンファレンス、CPCによる症例検討を推進する。 2. 鏡視下手術トレーニングコースSTEP1.2の試験とSTEP3の技術認定を実施する。
		④看護専門職を充実させる。	看護部	病院運営会議	<ul style="list-style-type: none"> 1. 放射線看護認定看護師を育成する。 2. 院内認定制度による認定看護師数を増加させる。
		⑤チーム医療を強化・推進する。	医療安全管理部	病院運営会議	TeamSTEPPSを継続して実施し、研修内容の充実と強化を図る。
		⑥救命救急体制の強化を図る。	業務課	救急部委員会	救急医療の充実と病棟再編を行う。
(2) 先進(高度)医療を開発し、施行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・先進医療新規認定数 H25：0件 H26：1件 H27：2件 H28：1件 H29：2件 	特定機能病院の要件を満たす。	管理課	各診療科先進医療委員会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 診療科からの相談に対応できるよう常に最新の情報を収集し支援を行う。 2. 医療の質・技術向上に取り組み、患者ニーズに対応した先進医療を提供する。 3. 他施設共同試験への参画に対する事務的支援を行う。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(3) 医療安全・感染対策管理体制の充実と推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 院内感染防止のためのラウンド数 H25: 391 H26: 309 H27: 309 H28: 435 H29: 435 院内感染防止のためのカンファレンス数 H25: 63件 H26: 78件 H27: 91件 H28: 100件 H29: 100件 	医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	医療安全管理部		<ol style="list-style-type: none"> 医療安全および感染対策研修会の未受講率を減少させる。 CVC(中心静脈カテーテル)挿入認定制度の運用開始とCVC挿入認定医師の増加を図る。 病棟ICT活動の推進により、アウトブレイク3事例の減少を目指す。 耐性菌対策として、環境整備を強化実施する。
(4) 適正な保険診療の徹底		「教育・研修改革」、「組織改革」、「意識改革」を実践する。	病院事務部		<ol style="list-style-type: none"> 保険診療適正化プロジェクトチームを設置して、診療科別個別指導、全学的啓蒙・個別啓蒙、診療録チェックなどを組織的に実行し、保険算定と診療記録の整合性の観点から保険診療がルールに基づいて行われるような組織風土を醸成する。 関係部署の施設基準の届出状況について定期的に確認・検証する。 医療現場のスタッフへ施設基準の教育を行い、理解させる。
(5) 患者・家族の満足度の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 苦情・クレーム件数(管理課) H25: 283件 H26: 315件 H27: 383件 H28: 367件 H29: 350件 (患者相談室) H25: 104件 H26: 113件 H27: 147件 H28: 98件 H29: 70件 説明と同意書の整備件数 H25: 3件 H26: 3件 H27: 5件 H28: 15件 H29: 50件 	<ol style="list-style-type: none"> ①インフォームド・コンセントを徹底する。 ②教職員マナーの向上を図る。 	病院事務部 看護部 患者相談室 看護部 病院事務部	病院運営会議 患者相談室	<ol style="list-style-type: none"> 電子カルテの導入に向けて、同意書・説明書を規程に則って統一し、適正なインフォームド・コンセントを行う。 入院診療計画書について1週間以内の記述100%達成と記述内容における質の向上を図る。 コミュニケーションスキル向上に向けて、教育システムを構築する。 看護師対応クレームを80件以下に抑える。 患者サービス向上のために強化点を分析し、研修を通じマナーの向上を図る。 外来・病棟委員会の下部組織に「患者クレーム対応チーム」を新たに設置し、多職種間での情報共有、機動性をもった活動を行うことで、教職員の意識改革を図る。 患者サービス向上ワーキンググループの活動を推進しマナー向上に取り組む。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(6) 地域連携促進ときめ細やかな医療サービスを提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介率(保険法) H25:46.8% H26:67.5% H27:71.9% H28:71.9% H29:70.0% ・逆紹介率(保険法) H25:30.5% H26:52.5% H27:52.7% H28:52.2% H29:50.0% 	紹介・受診しやすい外来システム改善と広域医療連携を構築する。	患者支援・医療連携センター		<ol style="list-style-type: none"> 1. 慈恵、企業、地域(医師会・行政など含む)3者間連携を強化し、新規紹介患者の確保につなげる。また、新規開業医療機関へ訪問を実施し、慈恵の取り組みを広報する。 2. 紹介元医療機関から紹介しやすい病院として認知してもらえるよう、院内受入れ体制を強化する。 3. 主治医と産業医の間をつなぐ両立支援チームを立ち上げる。 4. 医療連携フォーラムを継続する。
(7) 臨床研究を促進する。		薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。	治験センター	臨床研究支援センター 薬物・医療機器治験審査委員会 第1・第2倫理審査委員会 治験管理委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床研究法が施行された場合には、対象となる臨床試験が適切に実施されるよう臨床研究支援センターと連携して支援する。 2. 臨床試験・治験に係わる病院および大学の各部門と連携し、臨床研究の申請手続きから実施、終了まで、進捗に合わせて適切に支援が提供できるよう、事務局およびCRC(治験コーディネーター)の体制を整備する。 3. 電子カルテが導入されている各病院(葛飾、第三、柏)から、SS-MIXを用いた疾患レジストリを構築する。
(8) 効率的医療を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・中央棟手術室利用率(日勤帯) H25:70.6% H26:69.6% H27:70.6% H28:69.6% H29:70.0% ・外来棟手術室利用率(日勤帯) H25:44.0% H26:34.6% H27:36.9% H28:35.6% H29:40.0% 	<ol style="list-style-type: none"> ①効率的な診療体制の構築を図る。 ②手術室の安全で効率的な運用を図る。 ③救急患者受入れの体制整備と推進を行う。 	病院事務部 手術部 業務課	手術・中材・ICU運営委員会 救急部委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 土曜日の診療体制を見直し、患者数増加を図る。 2. 長期連休においては引き続き低侵襲定時手術の実施体制を整備する。 3. ゆるやかなセンター化構想を推進し、消化器センターの具現化を目指す。 4. 病院コンシェルジュを配置し、患者満足度を上げるとともに円滑な診療体制を構築する。 5. 国際医療への対応を検討する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 電子カルテ導入に向け手術室の新しい運用管理システムを構築する。 2. 附属4病院のSPD統一により、手術室における医療材料物流システムの効率化を推進する。 3. 周術期管理センターの設立に向け、業務効率と患者満足度の向上を目指した組織体制を構築する。 4. 医療機器認証システムの導入により、複雑な手術症例に対して安全で効率的な運用を確立する。 <p>紹介元医療機関、救急隊からの急患受入要請は、「断らない」運用を確実に実行し、断り症例は理由を把握、病院全体で管理を徹底する。</p>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(9) 適正な収支構造の確立		毎期設定される医業利益目標を達成する。	病院事務部		<ol style="list-style-type: none"> DPC 医療機関別係数の向上に取り組む。 看護職員夜間配置加算、病棟薬剤業務実施加算を算定できるよう体制を整備する。
(10) ICTを充実し、有効活用する。		ICT技術を活用し、医療の効率化を推進する。	システム課 業務課	情報システム統括委員会 情報システム運営会議	<ol style="list-style-type: none"> 平成30年1月に本院電子カルテシステムを導入する。 附属4病院でのモバイル環境の整備を図る。 電子カルテシステムを円滑に導入する。
(11) コスト管理の強化と収益性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 特殊材料費・消耗品費経費率 特殊材料費 H25: 9.17% H26: 9.40% H27: 9.46% H28: 8.33% H29: 7.98%以下 消耗品費 H25: 4.74% H26: 4.91% H27: 5.05% H28: 5.61% H29: 5.17%以下 原価率 H25: 92.9% H26: 95.2% H27: 96.2% 後発医薬品の数量シェア H25: 24.5% H26: 41.3% H27: 76.3% H28: 79.7% H29: 80.0% 	<ol style="list-style-type: none"> ①月次医療収支額を把握し活用する。 ②大学間ベンチマークを実施し、経営改善に活用する。 ③新外来棟建築計画も含めて、医療材料のSPD業務の再編を行う。 	病院事務部 病院事務部 経営企画部 経営企画部 病院事務部 施設課 経営企画部	経営企画部 コストマネージメント・プロジェクト	<ol style="list-style-type: none"> 各診療部で検討した目標値(患者数・手術件数)を基に病院運営会議で「予算目標値」を設定し、診療科積み上げ式の予算編成を行う。 手術室5室のアンギオ装置を更新し、TAVIなどの高収益手術を行い、収益改善につなげる。 各診療部の患者数などの目標値を予算に反映し、各診療部QI(クオリティインディケータ)を公表し経営意識を醸成させる。
					<ol style="list-style-type: none"> 7大学ベンチマークにおける現行指標に加え、医療経費に必要な情報(特殊材料や薬品費)の交換、診療行為別平均診療費などを比較し、経営に役立たせる。 医療安全に配慮しつつ後発医薬品への切替えを進め、早期に数量シェア80%を達成する。
					<ol style="list-style-type: none"> 1. 医材・物流ワーキンググループによる附属4病院共同購入を推進し効果を検証する。 2. コストマネージメント・プロジェクトを中心とした経費削減活動を継続する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. SPD業者の統一による更なるスケールメリットについて提案し、実施する。 2. 画像診断機器など同一メーカーによる附属4病院の複合保守契約ならびに複数年契約による経済的メリットを検証し提案する。
(12) 情報公開の条件を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 情報公開項目数(手術、合併症率、再入院率、再手術率等) H25: 0件 H26: 0件 H27: 0件 H28: 4件 H29: 0件 	診療情報を評価するシステムを構築する。	管理課		継続して臨床指標の実績公表を行う。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(13) 晴海トリトンクリニックの現状評価と将来構想		①晴海トリトンクリニックの機能(組織・診療体制・健診体制)を点検・評価する。	晴海トリトンクリニック	教員・医師人事室 人事課	1. 安定した収支構造を構築するため、断らない診療を実践する。また、住友商事移転後の患者、健診者確保に向けての対策を策定する。 2. 地域医療へ貢献するため、本院が進める循環型医療連携推進の中央区における一翼を担う。また、女性検診の充実を図り、中央区の女性検診に参画する。 3. 必要な医師を確保する。
		②医療機器の計画的な更新を図る。	晴海トリトンクリニック		永年使用の医療機器は、故障・修理不能などで前年度に更新したため、今年度においては医療機器の更新計画はない。
(14) 総合健診・予防医学センターの充実	<p>・がん早期発見率 (平成24年度実績ベース) H25:0.1% H26:0.1% H27:0.1% H28:0.1% H29:0.1%</p> <p>・メタボリックシンドローム該当者率 (平成24年度実績ベース) H25:14% H26:7% H27:5% H28:5% H29:6%</p> <p>・女性検診での早期異常状態発見率 (平成24年度実績ベース) H25:3.4% H26:3.0% H27:3.0% H28:3.1% H29:3.0%</p>	①がんを中心とした早期発見のため画像伝送システムをはじめ検査伝送システムの病院との連携強化を図る。	総合健診・予防医学センター		1. 試験運用している婦人科検診と内視鏡検査の同一実施を本格的に導入し、件数を増加させる。 2. 大腸内視鏡のオーダーリング導入を継続して検討する。
		②特定保健指導を充実させメタボリックシンドローム該当者を減らす。	総合健診・予防医学センター		1. 現行二企業で行っている試験運用結果を検証し、提携企業を増加させる。 2. 特定企業、健康保険組合との独自契約を結び健診当日に保健指導が可能な企業を増やす。
		③女性検診の充実化を図る。	総合健診・予防医学センター		新病院に向けて、乳腺超音波機器を導入できるように関係部署、医師、看護師と継続検討していく。
(15) 予防医学の推進		健康増進に関する新たな診療体制を検討する。	病院事務部	経営企画部	健康増進(運動・栄養・メンタル)に関する事業計画について、引き続き検討する。
●葛飾医療センターに関する目標					
(1) 医療安全・感染対策の管理体制を強化する。		医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	葛飾医療センター	医療安全推進室 感染対策室	1. 医療安全および感染対策研修会への未受講率を減少させる。 2. CVC(中心静脈カテーテル)挿入ライセンス制度の運用開始に向けて、認定試験を軌道にのせる。 3. 標準予防策の更なる浸透とPPE(防護用具)の適正使用を推進し、アウトブレイクレベル3事例の減少を目指す。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(2) コンプライアンスとガバナンスを強化する。		病院機能評価を受審し認定病院となる。	葛飾医療センター	病院運営会議	病院機能評価の受審結果を検証し、指摘事項などについて継続的に改善に取り組む。
(3) 健全財政を維持する。		①医療の効率化、透明化、標準化を推進する。	葛飾医療センター	業務課	1. DPCデータを活用し、当院の特性を分析する。 2. クリニカルパスの拡充と見直しを継続的に行い、医療の効率化、透明化、標準化を推進する。
		②コスト管理を徹底し収支差額を増大させる。	葛飾医療センター	管理課	1. 医薬品の適正使用ならびに後発医薬品の採用を推進する。 2. SPD委託会社の4病院統一化およびベンチマークなどにより医療経費率を低減する。
		③データウェアハウスを活用し管理会計を強化する。	葛飾医療センター	業務課	1. 収益性・機能性分析を行い管理会計を強化する。 2. 患者医療圏分析などのマーケティングを継続的に実施することにより、患者や紹介医療機関の特性を把握し、集患対策につなげる。
(4) オープン・システムを拡大する。	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介率(保険法) H25: 49.4% H26: 59.9% H27: 63.4% H28: 68.8% H29: 70.0% ・逆紹介率(保険法) H25: 17.9% H26: 30.4% H27: 26.3% H28: 26.2% H29: 30.0% ・公開講座平均参加者数 H25: 112名 H26: 97名 H27: 156名 H28: 112名 H29: 120名 	①附属4病院、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワークを拡大する。	葛飾医療センター	入退院医療連携センター	1. 附属4病院間の連携を強化する。 2. 連携登録医の拡大を図り、「顔の見える」医療連携を更に推進する。
		②地域包括ケアシステム構築に向けた在宅療養支援と地域看看連携強化を図る。	葛飾医療センター	看護部	1. 訪問看護ステーションとの相互研修と地域との合同勉強会を開催する。 2. 地域に向けたスキルアップ研修(オープン講座)を開催する。 3. 認定看護師によるオープン講座を開催し、活動内容をアピールし、在宅同行訪問依頼、電話相談へとつなげる。 4. 地域での看取りケースに関する終末期医療カンファレンスを訪問看護ステーションで開催する。 5. 小児の在宅調整に向けた相互研修および症例カンファレンスを開催する。
		③地域の健康管理・健康増進に貢献する。	葛飾医療センター	医療連携メディカルカンファレンス委員会	公開セミナー時に回収したアンケートの検証結果から、より地域ニーズに適合したテーマを策定し、例年通り年3回の公開セミナーを開催する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(5) 診療重点機能を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送数 H25: 3,532件 H26: 3,771件 H27: 3,737件 H28: 3,484件 H29: 3,600件 ・手術件数 H25: 4,494件 H26: 4,519件 H27: 4,450件 H28: 4,855件 H29: 4,700件 ・血液透析件数 (1ベッドあたり) H25: 1.38回転 H26: 1.60回転 H27: 1.54回転 H28: 1.40回転 H29: 1.45回転 	①プライマリーケア・ユニット(救急部・総合内科・小児科)の機能を強化する。	葛飾医療センター	救急部 総合内科 小児科	<ol style="list-style-type: none"> 1. PCU(プライマリー・ケアユニット)と専門外来の連携強化および救急受入れ体制を強化する。 2. 救急病床の再編と円滑な運用を構築し、救急車応需率および救急患者数を増加させる。 3. 総合内科体制の再構築に向け、関連部署との協議を推進する。
		②当初の計画通り、血液透析ベッドを拡張する。	葛飾医療センター	病院運営会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液透析室の増床後の安定稼働を図り、年間13,500件の透析を行う。 2. 認定看護師を配置し、透析看護の質的向上を図る。
		③がん治療を重点化する。	葛飾医療センター	病院運営会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん診療体制の維持、向上を図り、地域のがん診療に貢献する。 2. 放射線治療の稼働を推進する。 3. 乳がん看護ならびに緩和ケアの認定看護師により質的向上を図る。
(6) 大規模災害に備える。		①BCP(事業継続計画)を策定する。	葛飾医療センター	管理課	大規模災害訓練などを介して、BCPの実効性の検証を継続する。
		②被災地支援体制を構築する。	葛飾医療センター	管理課	<ol style="list-style-type: none"> 1. 業務調整員の活動を継続し、DMAT隊員の増員を申請する。 2. 葛飾区との総合防災訓練ならびに地元自治会との合同防災訓練に参加し、地域支援・連携体制を強化する。
●第三病院に関する目標					
(1) 医療安全と感染対策の体制を強化する。		医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	第三病院	医療安全推進室・ 感染制御室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療現場のチームワークとノンテクニカルスキルの強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ Team STEPPSの考え方を理解したスタッフの育成、現場での推進・定着を図り、チームで取り組み医療の質と安全を高める活動を強化していく。 2. 医療安全教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 収集したデータから現場での問題を共有し積極的予防活動につなげるための意識変革を行う。 ・ 決められた手順を守る文化の醸成につながる教育を実践する。 ・ 医療安全研修内容の再構築 3. 感染対策の基本技術向上の一環とし手指衛生指数15以上を維持する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成29年度事業計画

中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	平成29年度事業計画
(2) 総合医療サービスにより安心な医療と思いやりのある対応で地域に信頼される病院になる。	<ul style="list-style-type: none"> 救急搬送数 H25: 4,596件 H26: 3,984件 H27: 3,264件 H28: 3,589件 H29: 3,600件 手術件数 H25: 5,757件 H26: 5,654件 H27: 6,121件 H28: 5,868件 H29: 6,000件 病床稼働率(一般) H25: 84.0% H26: 83.6% H27: 83.8% H28: 83.6% H29: 88.0% 紹介率(保険法) H25: 38.2% H26: 53.9% H27: 56.7% H28: 61.7% H29: 60.0% 逆紹介率(保険法) H25: 18.6% H26: 34.1% H27: 42.4% H28: 44.3% H29: 40.0% 外来患者満足度「次回も当院をご利用いただけますか」 H25: 91% H26: 92% H27: 99% H28: 92% H29: 93% 入院患者満足度「あなたは家族や友人に当院への入院を勧めますか」 H25: 84% H26: 98% H27: 98% H28: 97% H29: 98% 	<p>①救急搬送患者の受入れを強化し、断らない救急を実現する。</p>	第三病院	救急医療委員会	<ol style="list-style-type: none"> 救急応需の連絡体制を点検し搬送連絡時間短縮策を講ずる。 救急応需率促進のため、ホットライン運用、救急ストップルールの再構築を行い、救急搬送数、救急患者数増加を図る。
		<p>②手術室の運用改善により手術件数の増加と緊急手術に対応する。</p>	第三病院	手術中材委員会	<ol style="list-style-type: none"> 平成28年1月より変更した手術枠について、継続的な評価を行い、安全かつ効率的な手術室運用を行い、年間手術件数6,000件の達成と緊急手術を受入れる体制を整える。 手術申し込みに対する実際の手術実施時間を開示し、効率的な手術室運用と術間インターバルの改善を行う。 学会参加等の理由により、使用しない各科手術枠を事前に把握し、他科に有効利用を促し、無駄の無い手術枠利用を行い、稼働率60%以上の維持を目標とする。
		<p>③東京都がん診療連携拠点病院の指定を受け、がんの集学的治療を充実させる。</p>	第三病院	がん診療センター	<p>国指定の「地域がん診療連携拠点病院」認可に向けて、北多摩南部医療圏における拠点病院との連携・相乗効果の創出を最優先課題実施のほか、社会保険労務士によるがん就労支援などの新規事業を実施していく。</p>
		<p>④東京都地域連携型認知症疾患医療センターの機能を拡充する。</p>	第三病院	認知症疾患医療センター	<ol style="list-style-type: none"> 認知症相談件数増加を考慮し、ホームページの充実ほか相談体制をより強化していく。また、認知症患者や認知症患者家族のため、教職員が認知症に関する理解を深められるように、認知症サポーター養成講座の定期開催を実施する。 行政の取り組みとして狛江市が発足する認知症初期集中支援チームをサポートしていく。
		<p>⑤病床の運用を改善し、入院の必要性に応える。</p>	第三病院	外来病棟委員会PFMタスク・フォース	<ol style="list-style-type: none"> 4月より病床配分の変更を行う。消化器疾患に特化した病棟や救急支援床(6床)の配置など新たな試みを行い、効率よい病床運用を図る。 退院予定オーダ発行率の向上を図る。
		<p>⑥医療連携を強化し、紹介患者の増加を図る。在宅医療を推進する。</p>	第三病院	総合医療支援センター運営委員会	<ol style="list-style-type: none"> 新規開業医療機関、健診施設への訪問を実施し、初診紹介患者増加を図る。 web予約医療機関にデータ開示のメリットを提示することにより、web予約医療機関を拡大し初診紹介患者増加を図る。
		<p>⑦患者満足度の高い病院への改善を図る。</p>	第三病院	患者サービス・ワーキング・グループ外来病棟委員会	<ol style="list-style-type: none"> 院長巡視を行い院内の改善を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 構内通路のバス利用者のため通路整備を行う。 患者用有料駐車場出入り口の段差解消を実施する。 患者サービスワーキンググループにて患者の声を中心に検討し、ホスピタリティ向上に努める。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(3) 新病院の基本構想、基本計画を策定する。		①第三病院の将来像を見据え、附属4病院の機能連携を考えた新病院構想・計画を策定する。	第三病院		1. 新病院構想を固める。 2. リニューアルに向けて、ワーキンググループの設置や他病院の見学など実施する。
		②大規模災害に備えた新病院構想を地域自治体と協力し策定する。	第三病院	防火防災委員会	1. 調布・狛江市と救護所設置訓練を実施する。前年度の訓練から災害対策本部のあり方、通信訓練内容を見直し、更に実践的な内容で実施する。 2. 狛江市が緊急医療救護所で使用する薬剤の保管場所を院内に移設し、緊急医療救護所への迅速な薬剤供給体制を構築する。
(4) ICT技術の活用により医療の効率化を実現する。		電子カルテを導入し、医療の効率化と医療データの有効利用を実現する。	第三病院	システム課 第三病院HIS委員会	1. データウェアハウスを活用し経営分析、臨床指標の作成を検討する。 2. 地域連携システムによる連携診療所への検査値などのカルテ情報の開示、カルテ監査システムの導入などによって、更なる医療の効率化・情報化を進める。
(5) 大規模災害に備える。		①BCP(事業継続計画)を策定する。	第三病院	防火防災委員会	前年度実施した緊急医療救護所設置訓練で抽出したBCPに係わる災害対策本部機能・場所・通信体制の見直しなどの課題を計画的に解決する。
		②DMAT(災害派遣医療チーム)の機能維持に努める。	第三病院	防火防災委員会	1. 新規隊員養成研修に申請する。 2. DMATと同形式の訓練(災害医療従事者研修)の募集があれば、同様に申請する。 3. DMAT隊の必要備品を点検し不足品を揃える。
(6) 教育・研修の推進		新しい専門医制度のもとで新設された「総合診療専門医」の基幹病院として、総合診療研修センターを運営する。	第三病院	総合診療研修センター 臨床研修センター	平成30年度開始予定の総合診療研修プログラムを完成させる。あわせてセンターとして総合診療専門医採用に向けた説明会の実施、採用活動を行う。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成29年度事業計画

中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
●柏病院に関する目標 (1) 医療安全・感染対策の推進を図る。		医療安全・感染対策を検証し、有効で効率的な取組みを構築し、実践する。	柏病院	医療安全推進室 感染対策室	(医療安全関連) 1. Team STEPPSの普及と有効な活用を図る。 2. 患者・家族への「説明と同意」の質を高める 3. 侵襲性のある医療行為の安全性を向上する。 4. 「中心静脈カテーテル挿入に係わる認定制度」に基づく柏病院における実施体制を整備する。 (感染対策関連) 1. 標準予防策、感染経路別予防策を徹底する。現場の自主的な持続的改善を推進する。 2. 医療関連感染防止対策を推進する。 3. 抗菌薬の適正使用を推進する。 4. 感染対策地域連携を強化する。地域の感染対策向上に貢献する。
(2) 医療の標準化・効率化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・レジメン登録件数 H25: 430件 H26: 470件 H27: 501件 H28: 581件 H29: 550件 ・手術件数 H25: 7,839件 H26: 7,628件 H27: 7,673件 H28: 7,642件 H29: 7,600件 ・クリニカルパス数(種類) H25: 14件 H26: 31件 H27: 62件 H28: 63件 H29: 68件 ・院内褥瘡発生率 H25: 1.11% H26: 0.80% H27: 0.75% H28: 0.65% H29: 0.60% ・NST介入件数 H25: 443件 H26: 443件 H27: 444件 H28: 482件 H29: 490件 	<ul style="list-style-type: none"> ①医療の質の向上と安全を確保する。 ②手術室の安全性の向上と効率化を図る。 ③DPCに対応したクリニカルパスの見直しを行う。 ④患者のためのチーム医療を推進する。 ⑤患者支援・医療連携センターの機能強化と患者相談・支援窓口(PFM)の充実により、病床の効率的な運用と医療の質の向上を図る。 	柏病院	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤検討ワーキング・グループ 手術室・中材運営委員会 クリニカルパス委員会 緩和ケア小委員会 NST委員会 感染対策委員会 褥瘡対策委員会 患者支援・医療連携センター PFMワーキング・グループ 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な薬剤投与の体制整備を構築する。 1. 臨時注射の個人セット病棟を拡大する。 2. 病棟薬剤業務の充実を図る。 全身麻酔手術件数の増加と緊急手術の受入体制を整備する。 1. 外来手術センターの利用を更に推進し、中央手術室の有効活用を図る。 2. 救急ストップを低減する。 3. 土曜日の手術実施を検討する。 既存クリニカルパスの見直し、および新規クリニカルパス作成を推進する。 1. DPCに対応しているか検証する。 2. クリニカルパスの登録件数・使用件数の増加を図る。 各医療チームがそれぞれの指標において、前年度を上回る改善を図る。 1. PFM機能強化により、病床の効率的運用を推進する。 2. 平均在院日数を14日台とする。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(3) 地域中核病院として十分に機能する。	<ul style="list-style-type: none"> ・先進医療の承認および実施件数 H25: 3件24症例、新規承認0件 H26: 2件10症例、新規承認1件 H27: 2件5症例、新規承認0件 H28: 2件3症例、新規承認0件 H29: 2件5症例、新規承認1件 ・紹介率(保険法) H25: 55.0% H26: 63.3% H27: 68.1% H28: 74.1% H29: 70.0% ・逆紹介率(保険法) H25: 36.7% H26: 48.5% H27: 49.7% H28: 54.9% H29: 50.0% 	①周産期センター化を検討する。	柏病院	病院運営会議	ワーキンググループを中心に、NICU・GCUの設置を始めとする周産期センター化に向けた検討を継続する。
		②東葛北部医療圏が求める外来および入院機能の拡充、先進医療を推進する。	柏病院	病院運営会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千葉県保健医療計画の見直しによる地域医療構想に応じた体制整備を行う。 2. 大学附属病院および地域中核病院として、先進医療を推進する。
		③地域包括医療を推進する。	柏病院	医療連携委員会	<p>PFM機能強化により、地域包括ケアシステムの中で急性期病院として貢献する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携医療機関の新規開拓と連携強化を図る。 2. 近隣の医師会、行政と連携し、地域包括医療を推進する。 3. web予約システムの機能拡大とシステム向上を図る。 4. 臨床倫理症例検討会への地域多職種参加を拡大する。
(4) がん診療連携拠点病院として必要な質の高い診療を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・外来がん延患者数 H25: 75,000名 H26: 74,368名 H27: 72,047名 H28: 66,786名 H29: 72,000名 ・入院がん延患者数 H25: 3,286名 H26: 3,611名 H27: 3,524名 H28: 3,263名 H29: 3,500名 ・外来化学療法室延患者数(月平均) H25: 409名 H26: 455名 H27: 482名 H28: 545名 H29: 545名 ・緩和ケアチーム介入数 H25: 95件 H26: 116件 H27: 139件 H28: 124件 H29: 140件 ・がん地域連携パス数(種類) H25: 5 H26: 8 H27: 7 H28: 7 H29: 7 	がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備し、高度がん医療を提供する。	柏病院	地域がん診療連携拠点病院運営委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国立がん研究センター東病院との協力体制により、地域がん診療連携拠点病院としての役割や要件を確認し、がん診療のレベルアップにつなげる。 2. 緩和ケア研修会の受講率を向上させる。(がん診療を行う診療科医師90%、研修医・レジデント100%) 3. がん地域連携パスについては、パスの拡充、医療機関の拡大、対象となる患者の抽出方法の構築を進める。 4. がん患者に対する歯科診療の充実について検討を継続する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成29年度事業計画

中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(5) 救命救急センターとしての診療体制および機能を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送数 H25: 3,034件 H26: 4,246件 H27: 4,587件 H28: 4,808件 H29: 4,900件 ・3次救急搬送件数 H25: 755件 H26: 881件 H27: 823件 H28: 942件 H29: 950件 ・救急車で来院し、入院となった患者数(救急医療入院のみ) H25: 1,514名 H26: 1,907名 H27: 2,413名 H28: 2,489名 H29: 2,500名 	①重症および複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者を24時間体制で受入れる。	柏病院	救命救急センター運営委員会	重症患者を救急部で受入れ、各科との連携を強化する。
		②救急医療の臨床教育を充実させる。	柏病院	救急委員会	慈恵柏BLSコース、慈恵ICLSコースの他、救命救急センター主催の勉強会を定期的に開催する。
(6) 収益の向上を図る。		<p>収益月次報告により、予算に対する執行額および収支バランスを把握し、収益目標額を達成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療経費(特殊材料費、消耗品費等)の削減 ・原価率 ・診療単価と手術単価 	柏病院	病院運営会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. SPD業者の統一に合わせ、スケールメリットを活かした共同購入の推進と購入価格の見直しを行い経費削減を図る。 2. SPD業者の統一による在庫一元管理を活用し、他機関との情報共有、不動態在庫の削減、配置在庫の適正化を実施する。 3. 後発医薬品の数量シェア80%を今年度早期に達成し、更なるアップを目指す。
(7) 災害拠点病院としての体制を整備する。		①DMAT(災害派遣医療チーム)の体制を強化する。	柏病院	DMAT創設ワーキンググループ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千葉県限定DMAT隊員を含め、全職種の増員を目指す。 2. 業務調整員と看護師のインストラクター資格取得支援を行う。 3. 附属4病院および総務課との連携を強化し、合同研修会などを企画する。
		②災害拠点病院としてBCP(事業継続計画)を策定する。	柏病院	防火災害対策委員会 病院運営会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時のハード(物品、備品ほか)およびソフト面(人員ほか)など、より具体的で実効性のあるものとする。 2. 災害訓練時にBCPに準拠した対応をシミュレーションし、実効性について検証を行う。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
II. 法人運営の改善および効率化に関する目標 1. 運営体制の改善に関する目標 ・内部統制の強化を図る。 ・理事会機能の更なる充実を図る。 ・法令遵守の徹底を図る。 ・法人運営の総合的計画立案機能を強化する。 ・個人情報管理を徹底する。 ・広報活動を充実する。	・申請過誤件数 H25：0件 H26：0件 H27：0件 H28：0件 H29：0件 ・科学研究費不適切使用 H25：5件 H26：0件 H27：0件 H28：0件 H29：0件	①寄附行為ならびに関連規程を検証する。	総務課		ガバナンスの観点から検証し、結果を関連規程に反映させる。
		②法令遵守と内部統制を強化するため、内部監査の充実を図る。	監査室		法人の活動を点検し、健全な運営を支援する。
		③法令遵守の徹底を図る。	総務課	監査室	1. 規程表記の統一に向け、点検および提言を継続する。 2. 文書管理方法について検討する。
		④個人情報保護の重要性を認識し、教育・指導を行う。	人事課		各階層研修において行動規範などを継続的に周知する。
		⑤本学の情報(社会貢献、研究成果、医療貢献)を学内外に発信する。	総務課		1. 附属4病院合同の個人情報保護に関する講演会を年1回実施する。 2. オールユーザーメールで年2回以上、個人情報保護について注意喚起する。
2. 人材確保・育成・活用に関する目標 ・人材育成のための教育制度を構築する。 ・職場環境を整備し、教職員の満足度を向上する。 ・業務の効率化を図り人件費を最適化する。	・教職員アンケートにおける満足度 H25：53.9% H26：51.3% H27：54.6% H28：51.1% H29：55.0% ・教員・医師の退職者数 H25：115名 H26：119名 H27：147名 H28：134名 H29：130名 ・看護要員確保率 H25：100% H26：100% H27：103% H28：100% H29：100% ・看護師離職率(附属4病院) H25：12.2% H26：11.8% H27：10.8% H28：11.3% H29：11.0%	①職員の人材育成制度を強化する。	人事課	職員研修委員会	内定者の入職前および新人の研修内容を強化する。
		②人材の有効活用のための評価方法を検証する。	人事課		人事考課者訓練および人事考課のスキルアップを図る。
		③教職員の満足度を向上させ教職員の定着率を高める。	人事課	経営企画部	雇用形態に応じた処遇を検証し、改善を図る。
		④看護師の安定確保を図る。	給与厚生課		ストレスチェック受検結果を精査して、職場環境の改善について検討し対策を講じる。
			教員・医師人事室		医師の短時間勤務の適用要件を、従来の育児支援に加え、介護および病気からの復職時にも取得可能となるよう規程の見直しを実施する。
		人事課 ナース就職支援室			1. 良質な人材を確保する。 2. 適正な看護師数を確保する。 3. 西新橋キャンパス再整備計画を想定した看護要員確保を推進する。
		看護部			1. 8月に行っている一次退職調査を継続して行う。 2. トレーディングプレイスを活用し、附属4病院間の適正配置を行う。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
		⑤労働生産性を向上させる。	人事課		1. 各部署にて業務改善を行うことを目的とし、労働生産性向上活動事務局の体制を強化する。 2. 電子カルテ導入、外来棟建築などの内部環境、外部環境の変化に対応した要員配置を策定する。
			教員・医師人事室		各診療科医師の勤務スケジュールを管理し、診療部間の勤務不均衡を是正する。
3. 事務の効率化・合理化に関する目標 ・ICT導入による効率化を実現する。 ・各部門間が有機的に連携する。		①適正なICTの活用により事務の効率化を図る。	システム課	情報システム統括委員会 情報システム運営会議	1. データウェアハウスによるベンチマークを附属4病院間で行う。 2. 研究・経営支援に必要な指標を整理する。
		②経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行えるよう情報提供をする。	経営企画部		診療科別、疾病別、患者別原価システムを構築するためにDPC分析ソフトと原価システムを統合したシステム開発を検討する。
		③各部門間の連携と相互補完体制を検討する。	人事課		各部門間の連携構築のため事務組織改編について継続的に検討する。
Ⅲ. 財務の改善に関する目標 1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標 ・安定した経営基盤を確立する。 ・経営改善が必要な重要項目について具体的な改善対策を推進する。 ・経常費補助金・科学研究費補助金の獲得・増加に努める。	・経常費補助金の獲得額 H25：35.3億円 H26：33.0億円 H27：33.5億円 H28：33.1億円 H29：32.7億円 ・収支差額予算達成率 H25：148.6% H26：98.1% H27：114.8% H28：108.8% H29：100% ・大型プロジェクト研究事案件数 H25：5 H26：5 H27：4 H28：3 H29：1	①効率的かつ適切な予算管理の仕組みを策定し、予算実績管理体制を強化する。	経理課		予算対実績比較を行い、乖離の大きい科目・部署については、要因を調査・分析し、適正な予算申請および執行となるよう該当部署に指導する。
		②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。	経営企画部	理事会 財務部	1. 産学連携を推進し、新たな事業開拓を構築する。 2. コスト・マネジメントプロジェクトなどを通じて引き続き経費削減対策を実施する。
		③本学の補助金獲得内容を分析し、増加のための対策を推進する。	研究支援課	大型プロジェクト対策委員会 教育研究助成委員会	1. 大型研究事業に応募する。 2. 継続して経常費補助金の根拠資料を充実させる。 3. 改革総合支援事業に応募し、1項目以上の採択を目指す。
		④補助金(公的研究費、私立大学等経常費補助金等)に係る管理体制を充実する。	研究支援課	教育研究助成委員会	1. チェックリストの有効利用による経常費補助金の管理体制を継続し、補助金獲得を推進する。 2. 自己解釈せずに疑問点は私学事業団に相談することで正確に理解し、必要な根拠資料を整備する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
2. 経費の抑制に関する目標 ・経費削減と効率化を図り、堅調な財政基盤を構築する。 ・物流の効率化、一括購入等を推進する。 ・各種資源の消費を削減する。 ・ICT関連経費の適正化を図る。	・医療経費率 H25：34.7% H26：35.2% H27：36.0% H28：36.6% H29(予算)：36.0% ・東京都温室効果ガス排出総量削減率 (東京都削減目標) H25～H26年度 平均8%削減 H27～H31年度 平均13%削減 (本院) H25：9.3%削減 H26：9.5%削減 H27：10.7%削減 H28：9.3%削減 H29：10.0%削減 (葛飾医療センター) H25：21.7%削減 H26：25.5%削減 H27：23.9%削減 H28：21.3%削減 H29：20.0%削減 (第三病院) H25：22.0%削減 H26：20.0%削減 H27：23.6%削減 H28：30.4%削減 H29：19.0%削減 (柏病院) H25：8.9%削減 H26：2.1%増加 H27：1.0%削減 H28：0.8%削減 H29：1.0%削減	①医療経費の抑制を図る。	施設課	コストマネジメント・プロジェクト	1. SPD統一に伴い医療材料経費を削減する。 2. 医療材料等共同購入組織の加盟継続について検討するため、費用対効果を検証する。 3. ベンチマークシステムによる交渉を行い、材料の購入価格削減を目指す。
		②ICTの適正導入と評価を行う。	経営企画部	薬剤部	1. コストマネジメント・プロジェクトで、画像診断機器における同一メーカーの附属4病院統合保守契約や複数年契約における経済的メリットを検証する。 2. 業務委託契約における仕様書の見直しや、相見積による現行の委託契約額の適正化を図る。 後発医薬品の数量シェア80%を維持する。
3. 資産の運用管理の改善に関する目標 ・全学的かつ経営的視野に立った資産の効率的な運用を図る。 ・適正な資金運用を促進する。		①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。	施設課		西新橋キャンパス再整備計画に伴い修繕計画を策定する。
		②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。	施設課	システム課 情報システム統括委員会 情報システム運営会議	1. 本院の病院情報システム導入に向け経費の適正化を図る。 2. 平成30年1月に本院電子カルテシステムを導入する。
					高額な機器について西新橋再整備計画にて購入する機器と年度予算での更新が必要な機器の切り分けを行い、更新計画を策定をする。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
IV. その他事業運営に関する重要目標 1. 本院新外来棟建築に関する目標 ・本院新外来棟の建築		①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。	西新橋再整備準備室	西新橋建築準備委員会	1. 医局、臨床ラボ、理事室、講堂等の移転計画を策定・実行し、新大学2号館(仮称)の供用を開始する。 2. 新病院(小児・周産期医療センター)(仮称)の施工を計画通り進めるとともに、運用面の計画を策定する。 3. 新外来棟・中央棟他機能拡充整備工事の実施設計を進め、大学本館(解剖学棟を除く)、旧図書館、大学2号館を解体し、平成30年1月の新外来棟着工に向けて計画を策定する。
		②西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟を含むハード計画を実現する。	西新橋再整備準備室	西新橋建築準備委員会	西新橋キャンパス全体の有効利用に配慮した新外来棟・既存棟改修工事の着工および関連するローリング計画を実施する。
		③本院の再整備計画を策定する。	病院事務部	新外来棟基本計画に関する病院幹部検討会	開院時の業務フローの確定、各部門の必要人員を試算する。
2. 大学マスタープランの策定に関する目標 ・明確な長期マスタープランを策定する。		教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。	経営企画部	マスタープラン懇談会	1. 慈恵大学100年記念事業委員会答申について継続的に検証する。 2. 新外来棟における次世代医療の実現に向けて継続的に取り組み、差別化戦略としての事業を立案する。 3. マスタープラン懇談会において、地域医療構想における附属4病院のポジョニングを明確にする。
3. 創立130年記念事業に関する目標 ・130年記念事業を実施する。 ・事業実現に必要な寄付金を確保する。	・記念事業募金額 H25：11.0億円 H26：12.4億円 H27：13.8億円 H28：15.1億円 H29：18.0億円	①記念事業「本院新外来棟建築を主とした西新橋キャンパス再整備」を実施する。	西新橋再整備準備室		1. 医局、臨床ラボ、理事室、講堂等の移転作業を行い、新大学2号館(仮称)の供用を開始する。 2. 新病院(小児・周産期医療センター)(仮称)の施工を遅滞なく進める。 3. 新外来棟・中央棟他機能拡充整備工事の実施設計を進め、大学本館(解剖学棟を除く)、旧図書館、大学2号館を解体し、平成30年1月より新外来棟を着工する。
		②記念事業に必要な寄付金を募集する。	財務部(募金事務局)		寄付金の累積目標を18億円とし、同窓、教職員、賛同企業に再度声掛けを行い、積上げを図る。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
4. 大規模災害時の対応に関する目標 ・大規模災害発生時の体制を構築する。 ・BCP(事業継続計画)を策定する。	・本学全建物の耐震基準充足率 H25:85% H26:95% H27:95% H28:95% H29:95%	①大規模災害時の体制を強化する。	総務課	総務課 人事課 システム課 施設課	1. 新大学2号館竣工に伴う災害体制を整備し周知する。 2. 地域と協力して災害対策訓練を実施する。
			管理課	管理課 他	再整備計画と連動させた附属病院BCPの作成を検討する。
			大学事務部		附属病院および大学のBCPを改定する。
			施設課		大規模災害に向けた設備計画を立案する。
		②被災地への支援体制を構築する。	管理課	防火防災対策委員会	看護師のDMAT新規隊員を育成し、増員する。
5. 葛飾医療センター開設後の評価に関する目標		新病院建設後の投資効果や初期目標の達成度などの全体的な評価を行う。	葛飾医療センター	経営企画部	新病院開院から5年が経過した中で、投資効果や初期目標の達成度など、プロジェクトを発足させ全体評価を行う。

裏白